2025年3月期第2四半期（中間期）決算説明会

2024年11月7日

東証プライム　7537

© 2024 MARUBUN CORPORATION

アジェンダ

1. 2025年3月期中間期 連結決算の概要
2. 2025年3月期 業績予想の概要
3. 株主還元
4. 中期経営計画の取り組み状況
5. 参考資料

Since 1844 Marubun

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年３月期中間期 連結決算の概要

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期 決算サマリ

（百万円）	2024年3月期 中間期		2025年3月期 中間期			前年同期比	予想比
	実績	売上比	予想（5/10）	実績	売上比		
売上高	123,729	—	99,000	**98,583**	**—**	△25,146 (△20.3%)	△417 (△0.4%)
売上総利益	15,254	12.3%	11,300	**12,513**	**12.7%**	△2,741 (△18.0%)	+1,213 (+10.7%)
販管費	7,911	6.4%	8,500	**8,141**	**8.3%**	+230 (+2.9%)	△359 (△4.2%)
営業利益	7,342	5.9%	2,800	**4,372**	**4.4%**	△2,970 (△40.5%)	+1,572 (+56.2%)
経常利益	2,080	1.7%	1,050	**3,125**	**3.2%**	+1,045 (+50.3%)	+2,075 (+197.7%)
親会社株主に帰属する中間純利益	1,137	0.9%	545	**2,143**	**2.2%**	+1,006 (+88.4%)	+1,598 (+293.2%)

- 売上高は、民生機器向け半導体をはじめとした全般的な需要の低下により減収
- 売上総利益は、前年同期比では減少。予想比では円安進行による円換算ベースでの押し上げ効果により増益
- 中間期末に向けた円高進行に伴う為替差益（6億円）の計上により、経常利益・中間純利益ともに増益

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期 事業別業績サマリ

デバイス事業

(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比
売上高	99,352	**74,817**	△24,534 (△24.7%)

▶ 民生機器・PC周辺機器・自動車向け半導体が減少

システム事業

(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比
売上高	23,538	**22,807**	△730 (△3.1%)

▶ 医用機器が減少

ソリューション事業

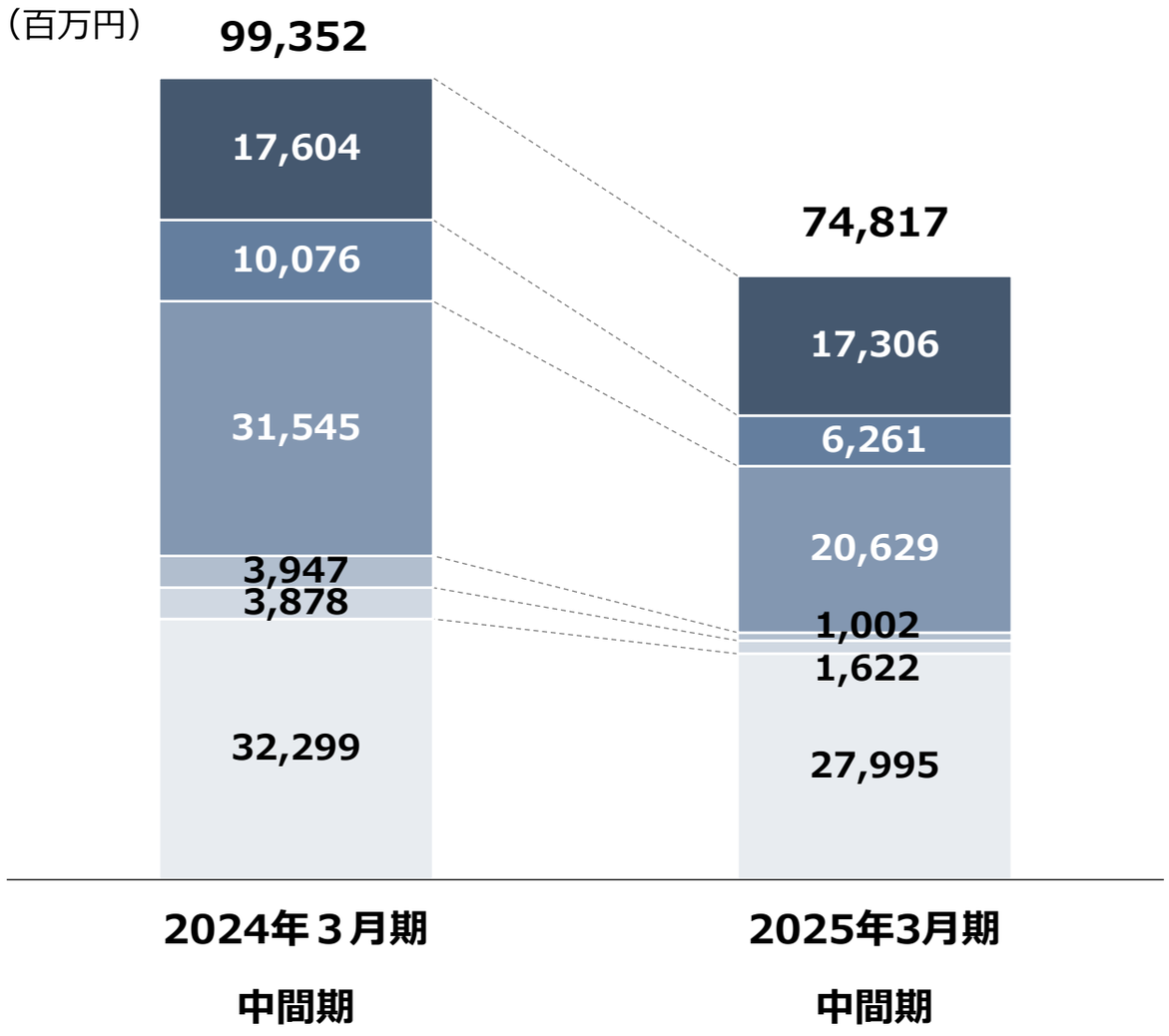
(百万円)	2024年3月期 中間期	2025年3月期 中間期	前年同期比
売上高	838	**957**	+118 (+14.2%)

▶ ICTソリューションが増加

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期『デバイス事業』品目別売上高



主な増減要因

電子部品（△298）
- 前期並み

カスタムIC（△3,815）
- PC周辺機器向けの減少

特定用途IC（△10,916）
- 民生機器向けの減少

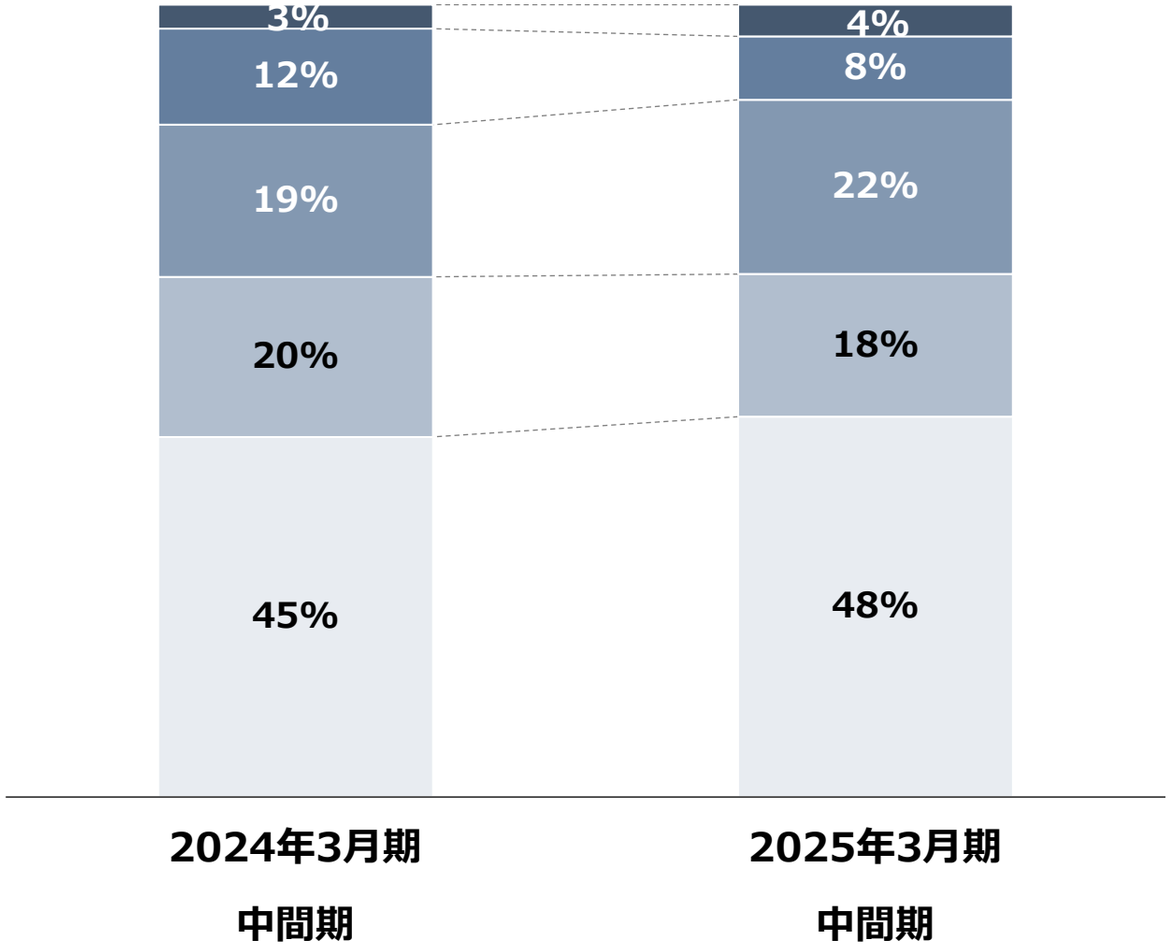
マイクロプロセッサ（△2,945）
- 自動車向けの減少

メモリーIC（△2,256）
- 自動車向けの減少

アナログIC（△4,304）
- PC周辺機器向けの減少

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期『デバイス事業』用途別構成比



主な増減要因

通信機器（+1ポイント）
- 前期並み

コンピュータ&OA （△4ポイント）
- データセンター向けの減少

産業機器その他（+3ポイント）
- 市場の冷え込みにより売上は減少しているが構成比は上昇

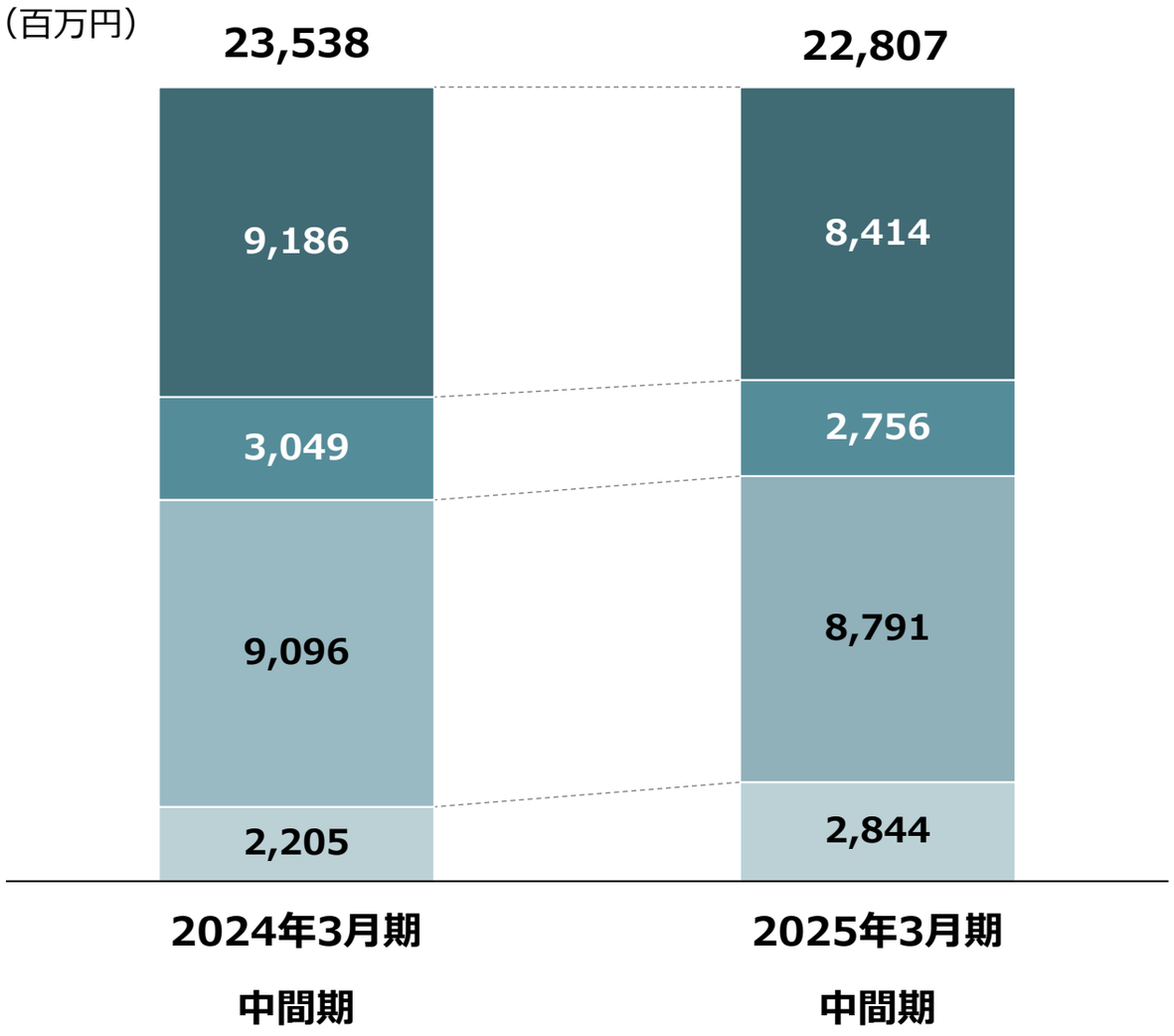
自動車（△2ポイント）
- 前期並み

民生機器（+3ポイント）
- 需要減により売上は減少しているが構成比は上昇

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期『システム事業』品目別売上高



主な増減要因

医用機器（△772）
- 放射線治療装置の減少

レーザ機器（△293）
- 光源部品の減少

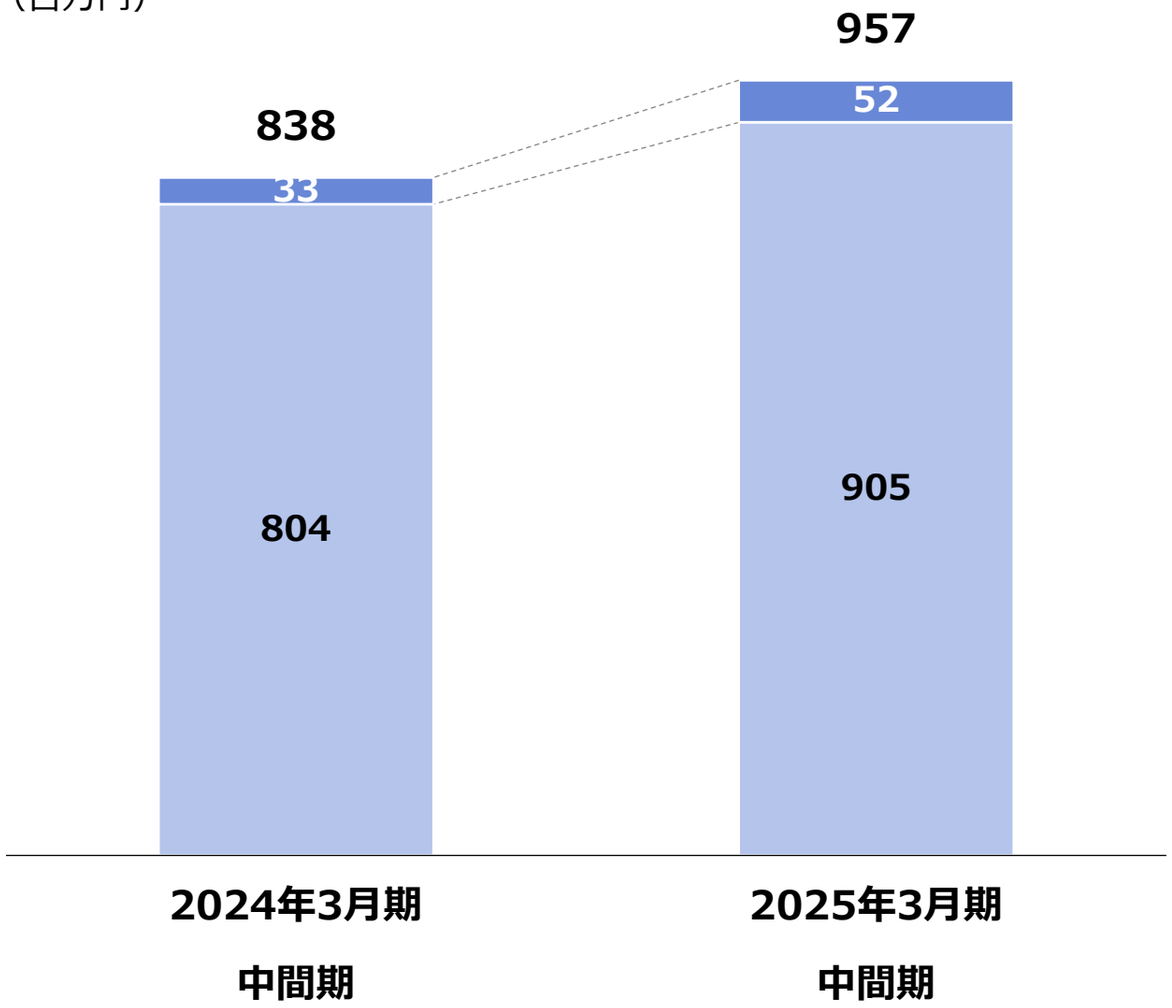
産業機器（△305）
- 電子部品組立検査解析装置の減少

航空宇宙機器（+639）
- 衛星通信関連装置の増加

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期『ソリューション事業』品目別売上高

（百万円）



主な増減要因

AI・ロボティクス（+19）
- 前期並み

ICTソリューション（+101）
- 時刻同期システムの増加

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期中間期 貸借対照表の概要

（百万円）	2024年3月期末	2024年9月末	前期末比
資産合計	**174,120**	**173,835**	**△284**
流動資産	162,616	160,720	△1,895
現金及び預金	23,823	21,333	△2,489
受取手形及び売掛金	50,855	40,888	△9,967
商品及び製品	51,316	48,150	△3,166
未収入金	34,847	47,878	+13,031
固定資産	11,504	13,114	+1,610
負債合計	**117,687**	**114,821**	**△2,866**
流動負債	116,669	113,973	△2,695
支払手形及び買掛金	28,243	24,275	△3,967
短期借入金	59,507	54,528	△4,979
未払金	19,027	24,913	+5,886
固定負債	1,018	847	△170
純資産合計	**56,433**	**59,014**	**+2,581**

＊流動資産と流動負債は主要項目のみ記載しております

- **総資産は、前期末から2億円減少**
- **資産の部は、売上減少に伴い受取手形及び売掛金が99億円減少、デバイス事業の代理人取引が増加したことにより未収入金が130億円増加**
- **負債の部は、運転資金需要の減少に伴い短期借入金が49億円減少、未払金は58億円増加**

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

＜参考＞為替差損益発生のメカニズム

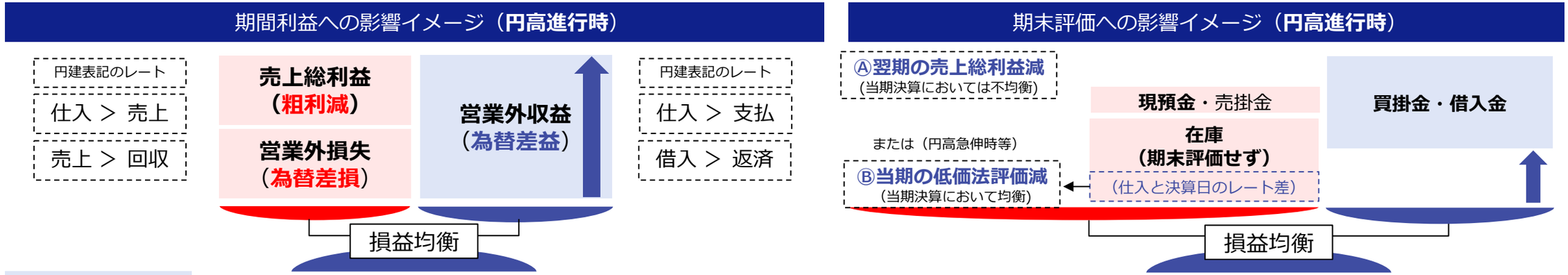
▶ Ⅰ. 当社の為替変動リスクへの対応方針

*詳細は当社ウェブサイトよりご確認できます

・仕入の大半が米ドル建のため、米ドル建売上は円を介さない「ナチュラルヘッジ」、円建売上は「為替予約ヘッジ」を実施

① 米ドル建売上	仕入～売上・回収の「一連の取引」の条件および対応する資産・負債を米ドル建とし、米ドル建利益を確保
② 円建売上	仕入債務に対する為替予約を取引明細毎に行い、取引毎の円建の利益を確保

▶ Ⅱ. ナチュラルヘッジ（米ドル仕入ー米ドル売上取引）における為替変動の影響



①期間利益影響	「一連の取引」を円建表記する際、円高進行によるレート差を、売上総利益（例：仕入から売上までの円高影響）や為替差損益（例：借入から返済までの円高影響）として計上するため、円建表記では「売上総利益の減」と「為替差益」の入り繰りが発生します。但し、左図の通り、ネット損益は決算期間内で均衡を確保します。
②期末評価影響	「一連の取引」で発生する現預金・売掛金・在庫・買掛金・借入金は米ドル建での価値バランスは確保されています。各項目は「決算日当日のドル・円レート」で期末に円建て評価を行ないますが： Ⓐ原則として「在庫」は「仕入時のドル・円レート」適用のまま期末日に評価の洗い替えを行なわないため、円建表記では現預金・売掛金の期末評価の為替差損に対し、買掛金・借入金の期末評価の為替差益が上回り、均衡が失われる分の「為替差益」を会計上認識します。但し、右図の通り、このような在庫の未認識の評価損が翌期（以降）の売上総利益の押下げ要因となることで、最終的には会計上も均衡が確保されます。 Ⓑ一方、期末に向けた円高急伸時は、「在庫」の明細毎に「低価法評価」の対象となることがあり、その場合は当期内に当該在庫の評価減を認識しますので、会計上の損益も均衡します。なお、この場合は、翌期（以降）の「売上総利益」の増減影響は発生しません。 右図の通り、上記Ⓐ Ⓑいずれの場合も、円高進行による在庫の円建て評価損は、適宜、当期または翌期（以降）に会計認識され、最終的に損益均衡は確保されます。

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年３月期 業績予想の概要

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期 業績予想サマリ

（百万円）	2024年3月期 実績	2024年3月期 売上比	2025年3月期 期初予想	2025年3月期 修正予想	2025年3月期 売上比	前期比	期初予想比
売上高	236,490	―	212,000	**210,000**	**―**	△26,490 (△11.1%)	△2,000 (△0.9%)
売上総利益	29,607	12.5%	25,600	**25,700**	**12.2%**	△3,907 (△13.2%)	+100 (+0.4%)
販管費	16,623	7.0%	17,000	**16,650**	**7.9%**	+27 (+0.2%)	△350 (△2.1%)
営業利益	12,984	5.5%	8,600	**9,050**	**4.3%**	△3,934 (△30.3%)	+450 (+5.2%)
経常利益	5,627	2.4%	5,000	**6,000**	**2.9%**	+373 (+6.6%)	+1,000 (+20.0%)
親会社株主に帰属する当期純利益	3,401	1.4%	3,000	**4,150**	**2.0%**	+749 (+22.0%)	+1,150 (+38.3%)

＊2024年度下期想定為替レート：145円/ドル

- ５月10日に公表した業績予想を修正
- 売上高は、デバイス事業とシステム事業の需要低下を受け期初予想を下回る見通し
- 営業利益は、円安進行に伴う円換算ベースでの売上総利益の押し上げ効果により期初予想を上回る見込み
- 経常利益は、今中間期に為替差益（6億円）を計上したことにより期初予想を上回る見込み

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期 事業別業績予想サマリ

デバイス事業

（百万円）	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
売上高	179,011	**149,200**	△29,811 (△16.7%)

▶ 上期に続き、民生機器・PC周辺機器・自動車向け半導体の減少を見込む

システム事業

（百万円）	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
売上高	54,941	**57,800**	+2,859 (+5.2%)

▶ 上期は医用機器が減少したが航空宇宙機器・レーザー機器の増加を見込む

ソリューション事業

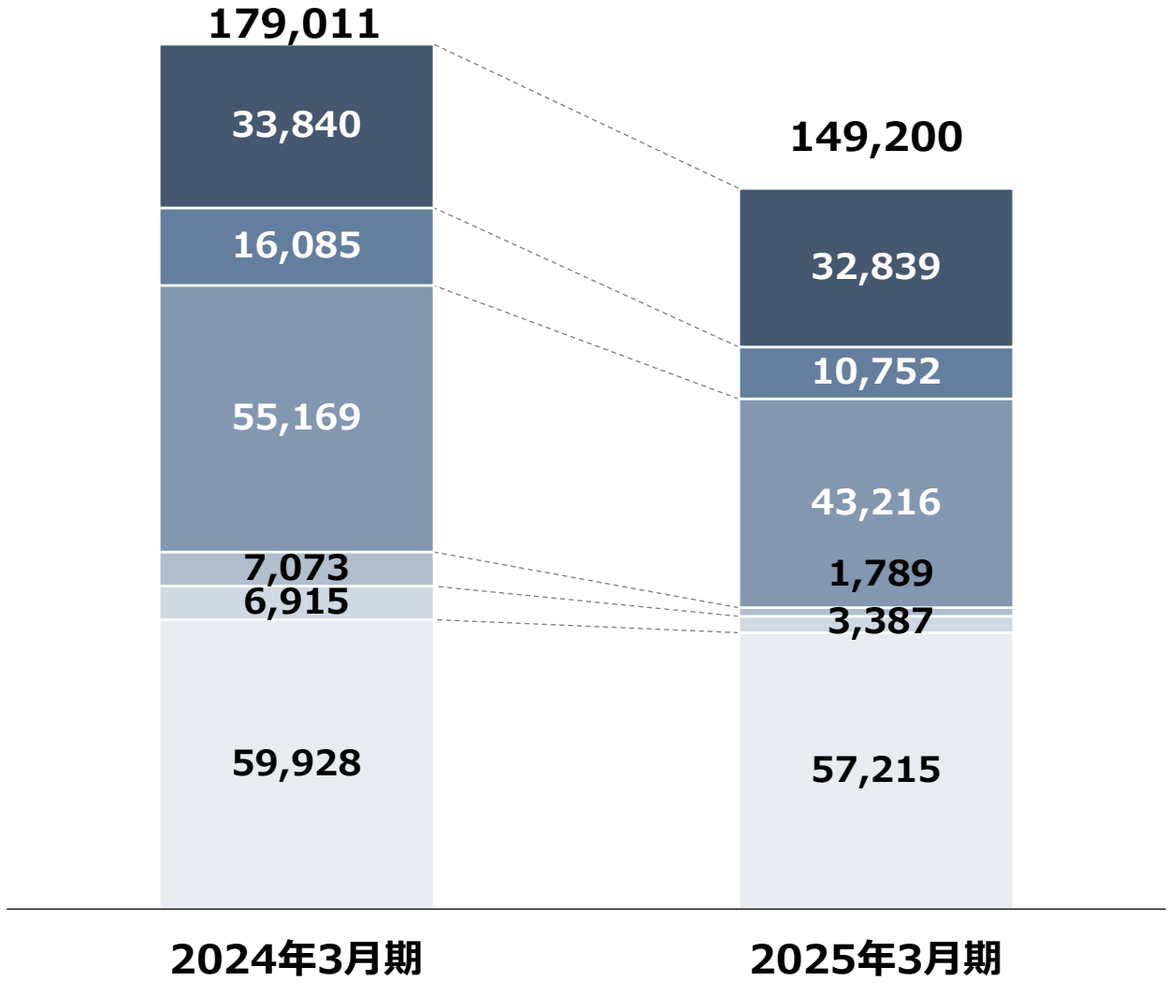
（百万円）	2024年3月期 実績	2025年3月期 予想	前期比
売上高	2,536	**3,000**	+464 (+18.3%)

▶ AIロボティクスの立ち上げが遅れたがICTソリューションの増加を見込む

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期 『デバイス事業』品目別売上高予想

（百万円）



主な増減要因

電子部品（△1,001）
– 前年度並み

カスタムIC（△5,333）
– PC周辺機器向けの減少

特定用途IC（△11,953）
– 民生機器向けの減少

マイクロプロセッサ（△5,284）
– 自動車向けの減少

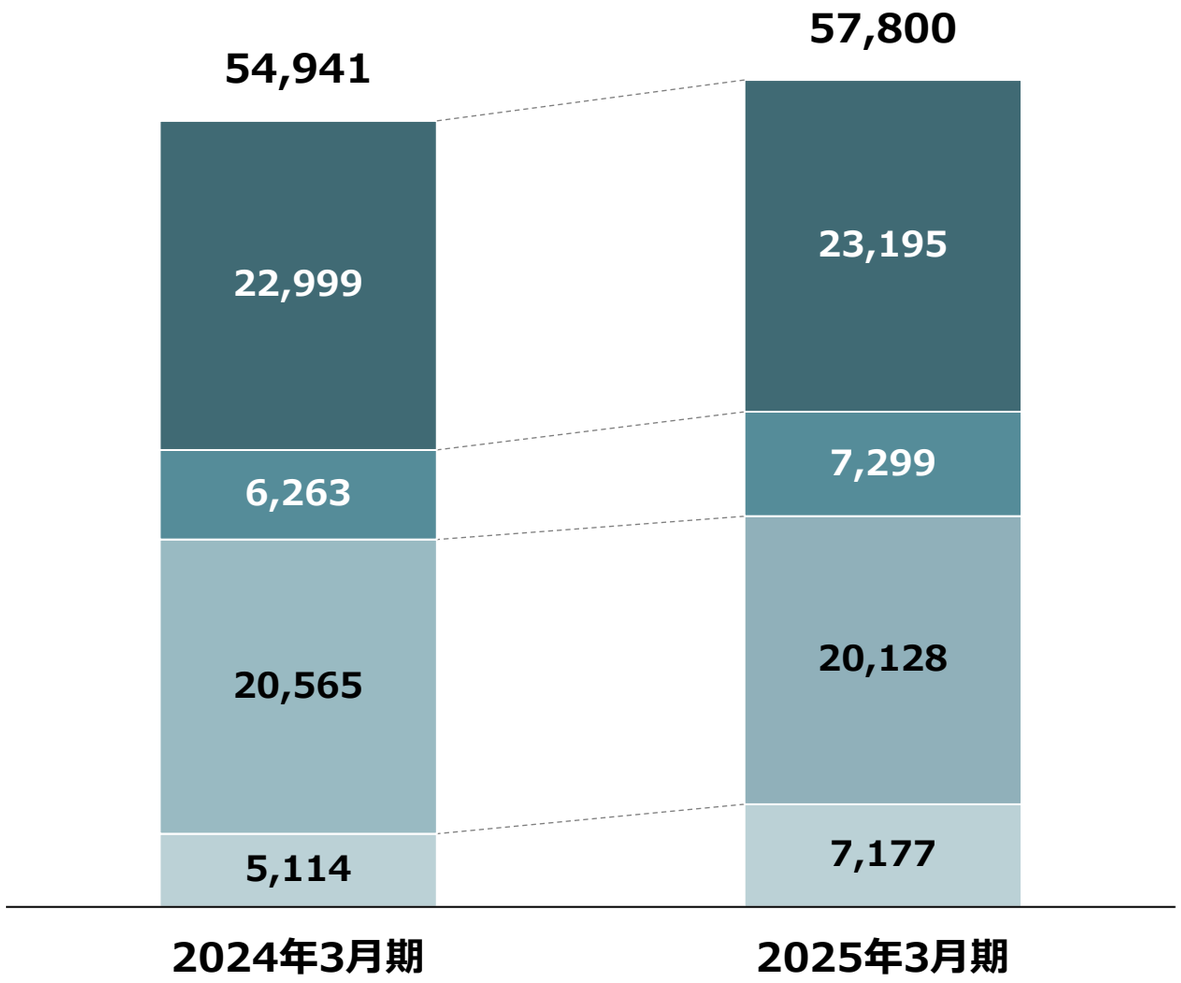
メモリーIC（△3,528）
– 自動車向けの減少

アナログIC（△2,713）
– 民生機器、PC周辺機器向けの減少

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期 『システム事業』品目別売上高予想

（百万円）



主な増減要因

医用機器（+196）
- 前年度並み

レーザー機器（+1,036）
- 半導体レーザー、レーザー加工装置の増加

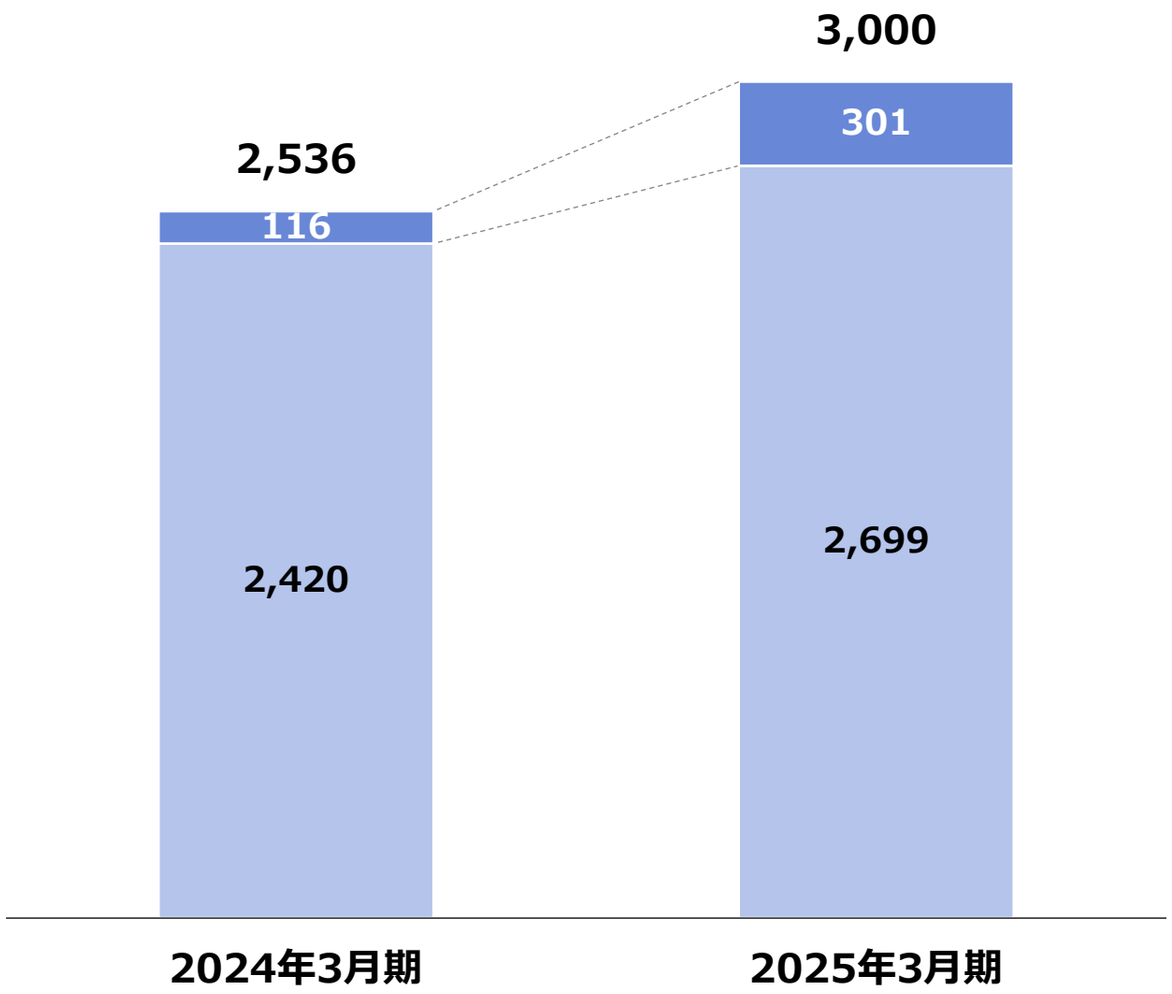
産業機器（△437）
- 前年度並み

航空宇宙機器（+2,063）
- 宇宙関連部品の増加

© 2024 MARUBUN CORPORATION

2025年3月期 『ソリューション事業』品目別売上高予想

（百万円）



主な増減要因

AI・ロボティクス（+185）
- AI搭載ロボットの増加

ICTソリューション（+279）
- 時刻同期システムの増加

Marubun Since 1844

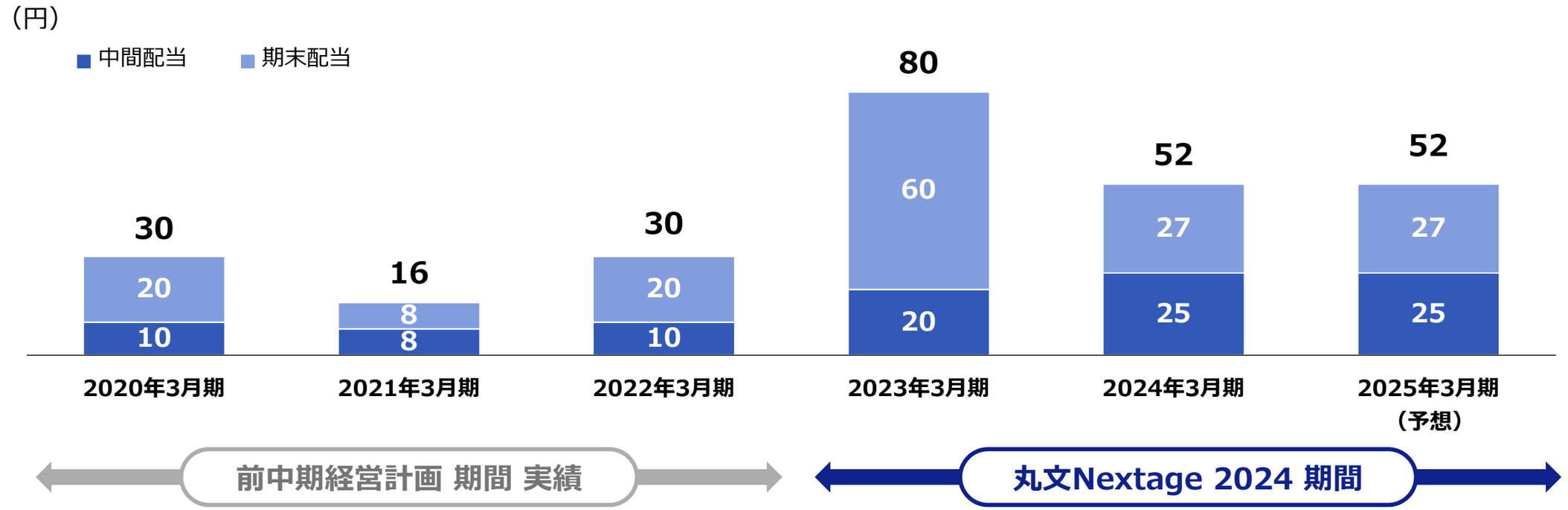
© 2024 MARUBUN CORPORATION

株主還元

© 2024 MARUBUN CORPORATION

株主還元

配当方針	連結配当性向40%またはDOE（株主資本配当率）2.5%のいずれか高い方を目安に、継続的かつ安定的な配当を実施することを基本方針とする
2025年3月期の配当	2025年3月期の配当：中間 25円、期末27円の年間52円配当を予定 配当性向：32.8%、DOE（株主資本配当率）：2.6%



© 2024 MARUBUN CORPORATION

中期経営計画の取り組み状況

© 2024 MARUBUN CORPORATION

中期経営計画「丸文 Nextage 2024」

▶ 3つの事業成長方針とともに、サステナビリティへの取り組み、事業基盤整備と内部プロセスの改善を推進

『丸文Nextage2024』基本方針

基本方針

サステナビリティ経営の推進

事業成長方針

- 新たな事業領域への進出と成長基盤の構築
- 既存事業の「選択と集中」促進とソリューション開発強化
- グループ経営の強化

業務基盤整備と内部プロセスの改善

2024年度 財務目標

経常利益60億円以上　ROE8%以上の確保

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

各事業の成長戦略

▶ 各事業セグメントの取り組みを推進しつつ、事業セグメント間のシナジー創出を追求

デバイス事業

- 『**基盤強化事業**』として、高付加価値商材開発と商材ミックスの代謝を通じ、グローバルでの業容維持・拡大を図る
- 生産性と効率性の継続的改善に努め、ローコスト・オペレーションを追求する

2024年度 売上高目標 **1,430億円**

システム事業

- 『**成長牽引事業**』として、既存ビジネスの持続的成長に加え、新規領域・新規市場での収益基盤拡大を目指す
- 連結会社間の連携強化を通じたグループシナジーを発揮し、顧客サービスレベルの継続的向上を図る

2024年度 売上高目標 **630億円**

ソリューション事業

- 『**価値創出事業**』として、成長市場における革新的な商材・技術・サービスの開発、創出を加速する
- 戦略的事業買収、有望なベンチャー事業投資、外部パートナー提携を通じた非連続成長に貢献する

2024年度 売上高目標 **40億円**

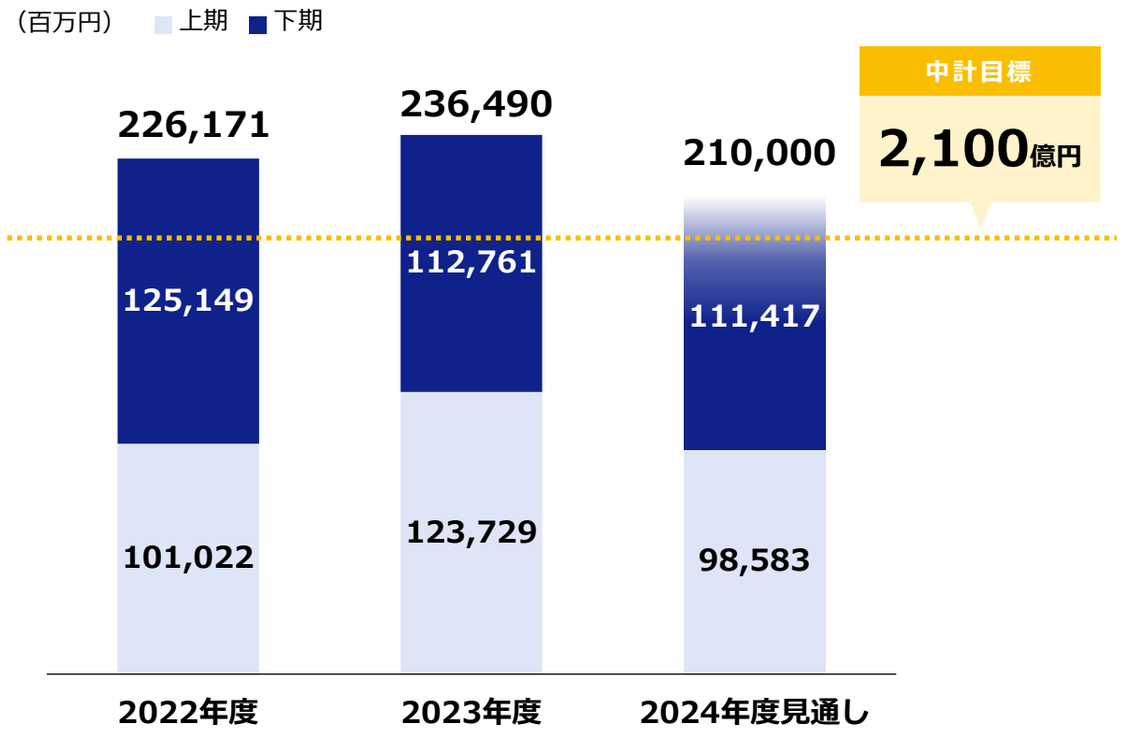
Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

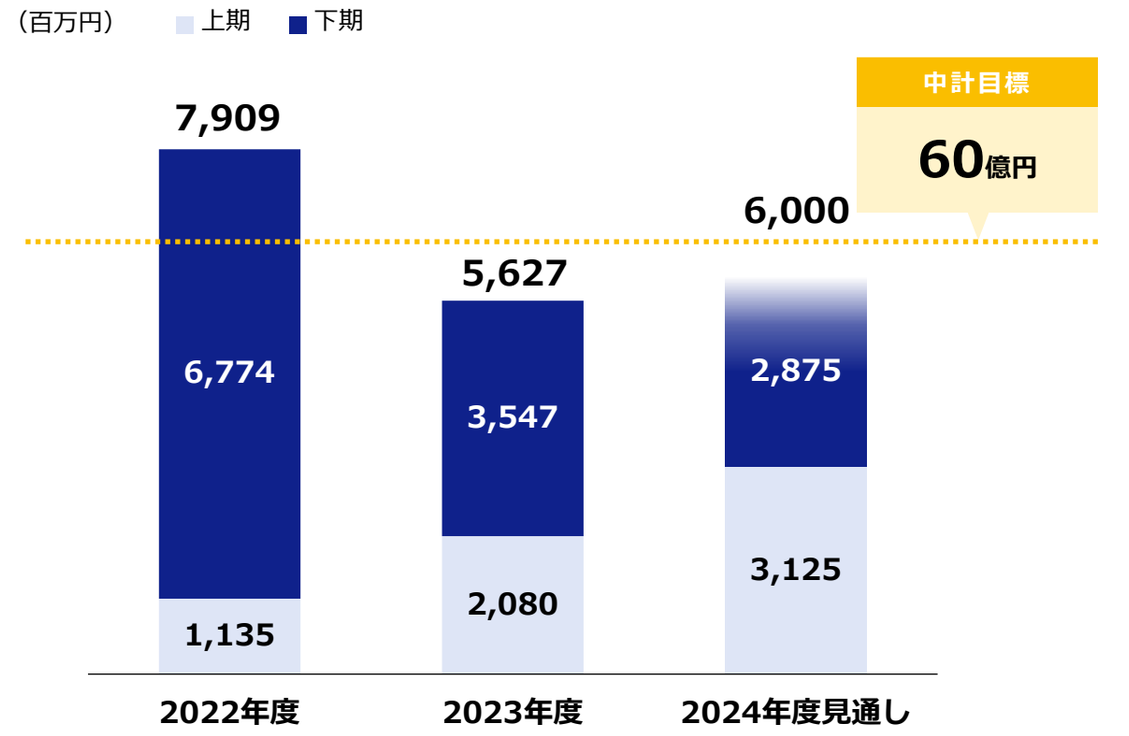
これまでの進捗状況と2024年度の見通し

- 中期経営計画の売上高目標はシステム事業、ソリューション事業で未達の見込みだが、デバイス事業がこれを補完する形で達成する見込み
- 経常利益もドル金利上昇の影響を大きく受けているが、目標は達成の見通し

売上高進捗状況



経常利益進捗状況



Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

『デバイス事業』の総括と取り組み状況

2024年度の中間期総括と通期見通し

- 売上高は前年度下期から産業機器を中心に在庫調整の局面が継続
- 今年度の売上高は2023年度を下回るものの、中計目標は上回る見込み

取り組み状況

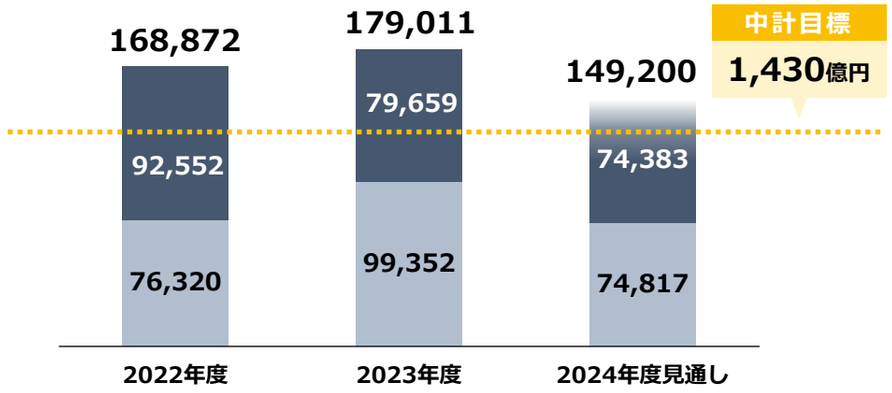
- 広範な顧客層への拡販施策として説明会の開催や各種のキャンペーンの実施、積極的な情報・資料提供を展開
- 販売パートナーとの協働により引き合い件数が増加
- 高付加価値のFPGA*等の拡販で、案件獲得が進む

*Field Programmable Gate Arrayの略で、プログラム書き換えが可能なIC

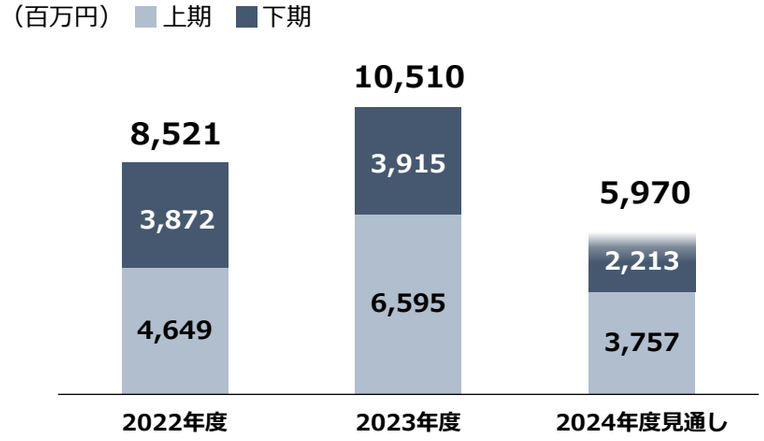
課題と対応策

- 市場停滞を背景に、一部在庫の積み上げが発生
  - 在庫削減や発注コントロールを徹底し、需給に応じた在庫水準を維持

売上高推移



営業利益推移



© 2024 MARUBUN CORPORATION

『システム事業』の総括と取り組み状況

2024年度の中間期総括と通期見通し

- 防衛・宇宙予算の拡大に伴い、航空宇宙分野の売上が伸長
- 産業機器分野は設備投資の抑制や案件の後ろ倒しにより厳しい状況
- 下期においても同様の傾向が続く見込みで、中計目標は未達の見通し

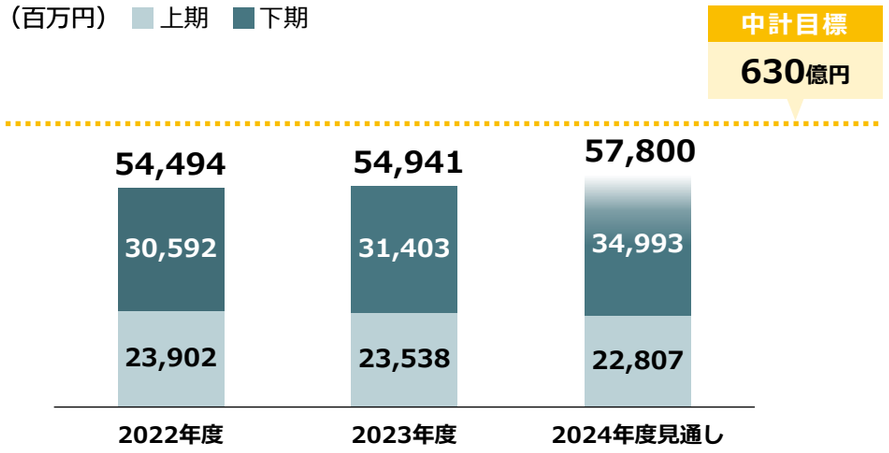
取り組み状況

- 持続的な成長が見込める防衛・宇宙関連事業に注力するため、組織体制を再編成
  - 高信頼性部品やアンテナシステムの提案活動を実施
- 産業機器やレーザー機器分野では海外での販路拡大を推進

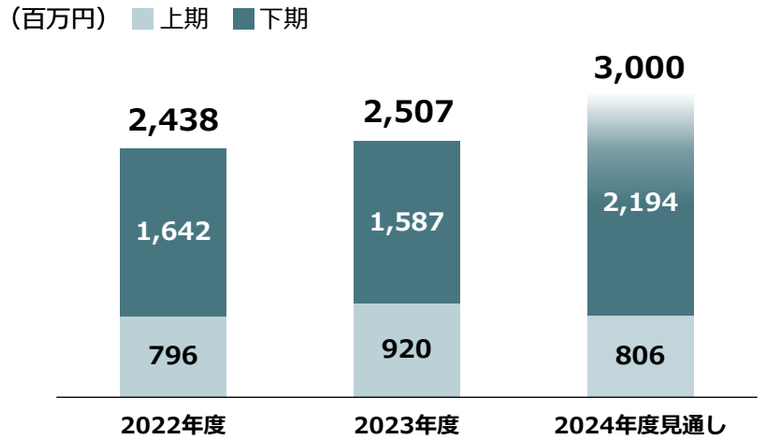
課題と対応策

- 新規領域拡大への取り組みの強化
  - 商材の拡充、パートナーとの更なるアライアンス強化
- グループシナジーの発揮
  - 技術力を活かした連携の強化

売上高推移



営業利益推移



© 2024 MARUBUN CORPORATION

『ソリューション事業』の総括と取り組み状況

2024年度の中間期総括と通期期見通し

- 当社独自のクラウドサービスの開発やAIロボット、デジタルヘルスケア関連商材の立ち上げを推進
- 先行投資段階であり採算確保は次年度以降にずれ込み、中計目標は未達の見通し

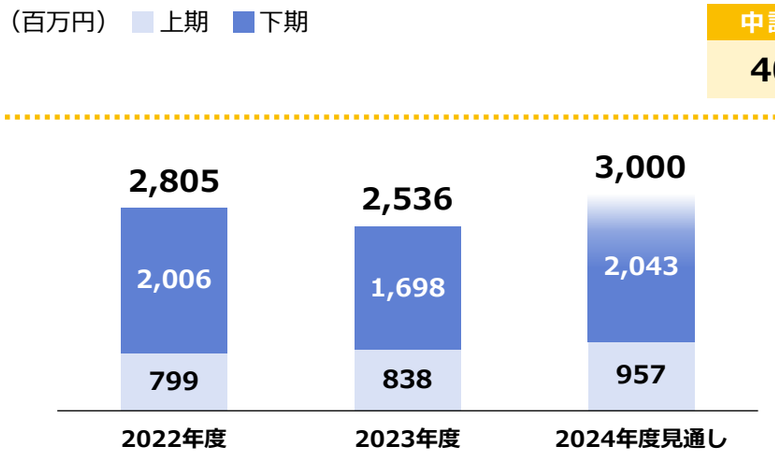
取り組み状況

- Nuwa Robotics社製AIコミュニケーションロボットの積極的な販促活動を展開
- 空間伝送型ワイヤレス電力伝送システム「Cota Real Wireless Power™」の当社オリジナル評価キットを開発
- Clarius社製ハンドヘルド型汎用超音波画像診断装置の販売開始
- スタートアップ企業発掘のため、SBIデジタルスペースファンドへ出資

課題と対応策

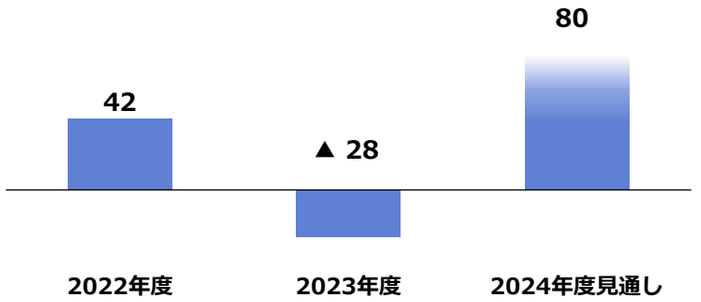
- 多様な顧客ニーズへの対応
  - 顧客や社会課題の解決を図るユースケースの開発を促進
- 高付加価値商材・サービスの発掘
  - ファンド出資を通じた有望なスタートアップ企業の発掘・協業を加速

売上高推移



営業利益推移

（百万円）※通期



© 2024 MARUBUN CORPORATION

「MARUBUN REPORT 2024」発行

▶ グループ初となる統合報告書「MARUBUN REPORT 2024」を発行

「テクノロジーで、よりよい未来の実現に貢献する」ための
丸文グループ独自の
価値創造モデルやバリューサイクルの強みを紹介

中長期的な企業価値向上に向けたCEO・CFOのメッセージや
各事業の事業戦略、環境・社会・人的資本など
当社グループの幅広い取り組みを掲載

当社ウェブサイトよりご確認頂けます

今後も開示情報の充実を図りつつ、ステークホルダーの皆さまとの対話を促進

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

Proven Sustainability

180th

Since 1844

Marubun

参考資料

© 2024 MARUBUN CORPORATION

企業概況

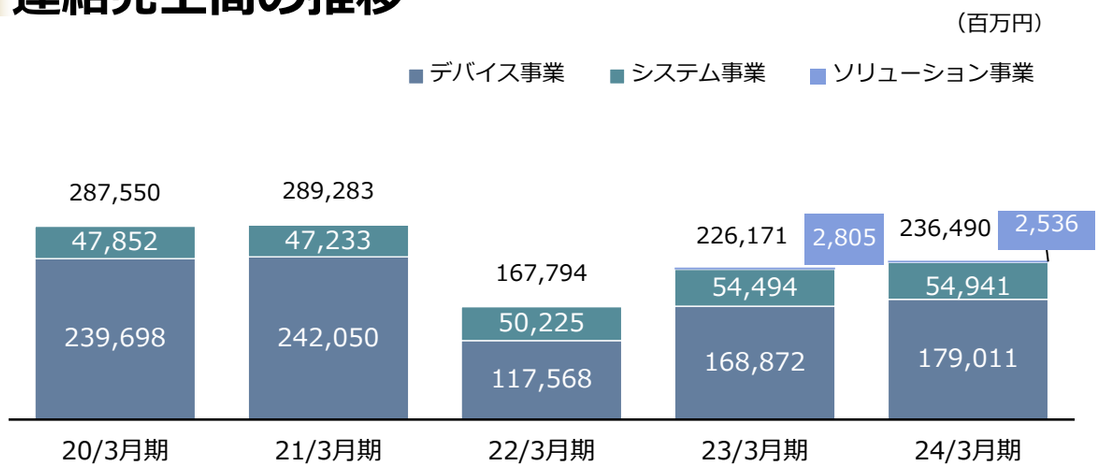
会社概要

創　　業	1844年（弘化元年）
設　　立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長　飯野亨
売 上 高	連結　236,490百万円（2024年３月期） 単体　180,265百万円（2024年３月期）
従業員数	連結　1,167名（2024年3月末） 単体　　615名（2024年3月末）
株式上場	東京証券取引所　プライム市場 （コード:7537）

事業領域

デバイス事業	システム事業	ソリューション事業
■ 半導体	■ 航空宇宙機器	■ ICTソリューション
■ 電子部品	■ 産業機器	■ AI・ロボティクス
	■ レーザー機器	
	■ 医用機器	

連結売上高の推移



© 2024 MARUBUN CORPORATION

沿　革

国　内

2022
東京証券取引所プライム市場に移行

2008
エレクトロニクス商社で初めて特定輸出者として認証

2007
フォーサイトテクノを子会社化

2005
丸文ウエストを設立

2001
東京証券取引所市場第一部上場

1997
東京証券取引所市場第二部上場

1965
集積回路を国内で初めて輸入販売

1961
金沢支店を分社し、
丸文通商を設立

1952
Rocke International社と代理店契約し、
独自での米国製機器の輸入販売を開始

1947
機械器具、日用雑貨類の販売と輸出入を目的に
丸文株式会社を設立

1897
呉服問屋を停止し、資産管理を目的に堀越事務所を設立

1844
現本社所在地で呉服問屋「堀越」（屋号「丸文」）を創業

海　外

2014
インドネシア、メキシコに現地法人を設立

2013
深圳に現地法人を設立

2006
マレーシアに現地法人を設立

2002
フィリピン、上海に現地法人を設立

2001
タイに現地法人を設立

1999
米国Arrow Electronics社と折半出資で
Marubun/Arrow USA,LLCを設立

1998
米国Arrow Electronics社と
折半出資でMarubun/Arrow Asia,Ltd.を設立

1994
香港に現地法人を設立

1989
台湾に現地法人を設立

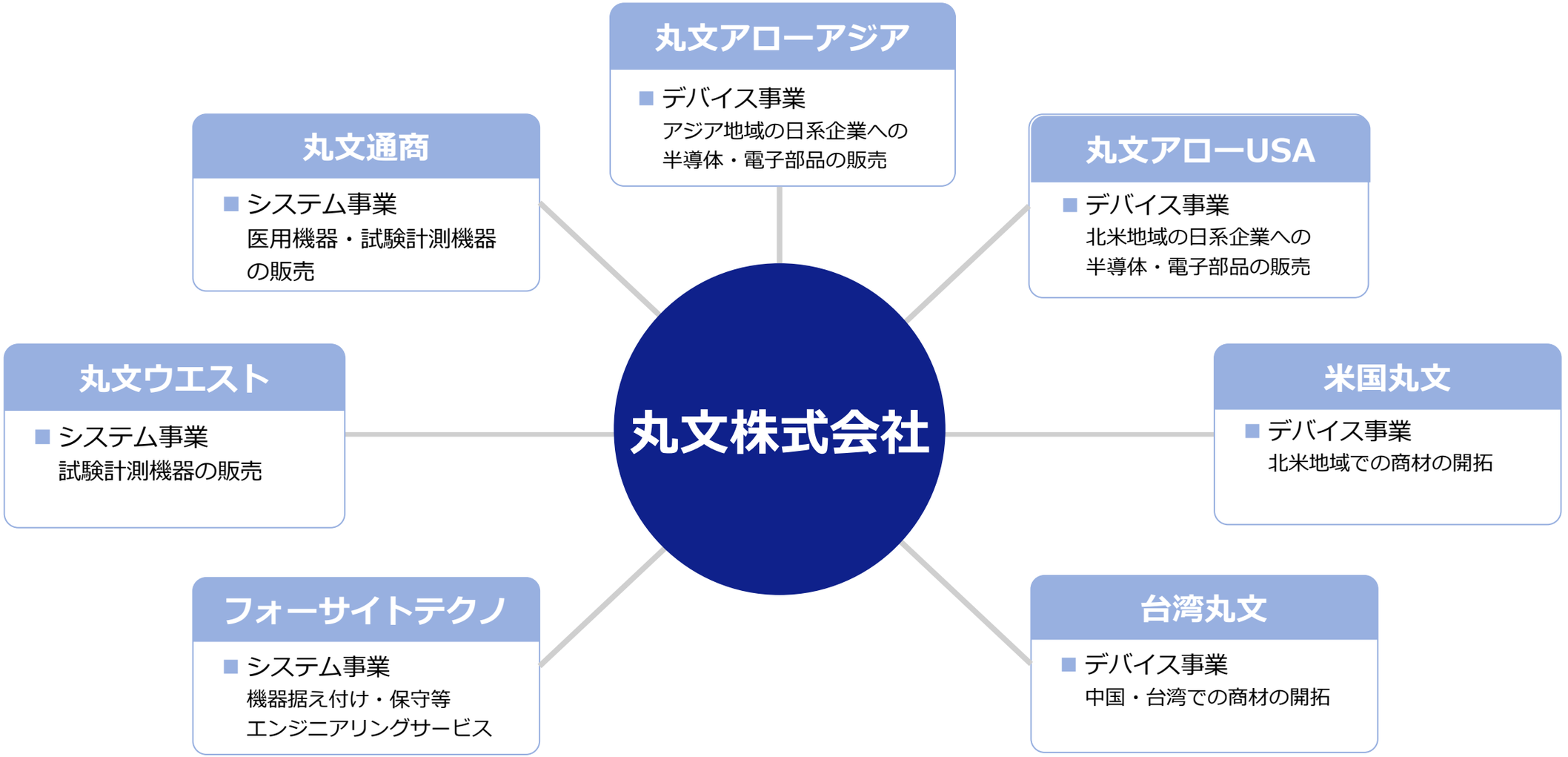
1988
シンガポールに現地法人を設立

1968
米国駐在事務所を設置

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

関係会社

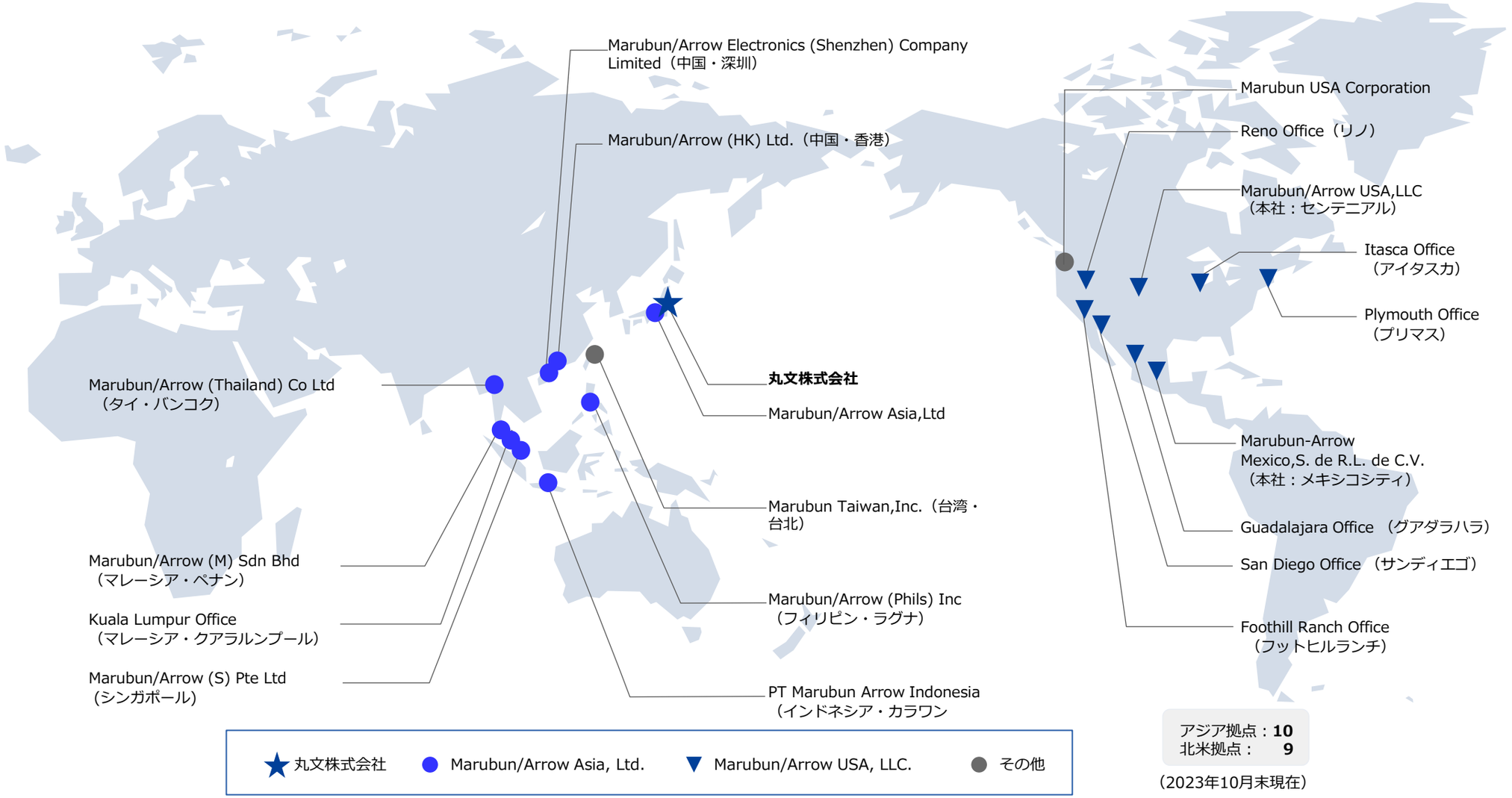


© 2024 MARUBUN CORPORATION

国内拠点

© 2024 MARUBUN CORPORATION

グローバルネットワーク



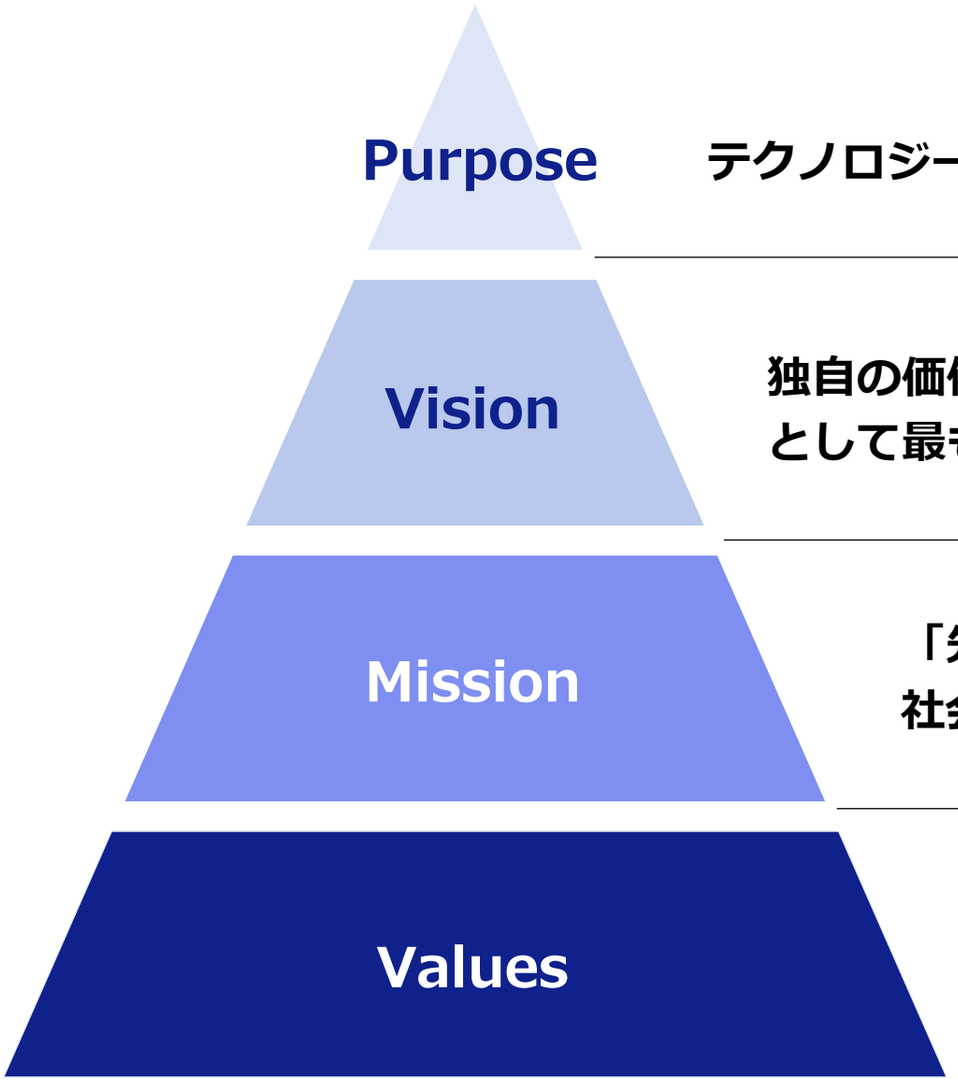
アジア拠点：**10**
北米拠点：　**9**

（2023年10月末現在）

Since 1844 Marubun

© 2024 MARUBUN CORPORATION

企業理念体系



テクノロジーで、よりよい未来の実現に貢献する

独自の価値を提供するオンリーワンのエレクトロニクス商社
として最も信頼される存在となる

「先見」と「先取」の精神のもと、人と技術とサービスで
社会とお客様の課題を解決する

「誠実で透明な経営」「健全な経営活動の実践」「社会との調和」
「環境保全への貢献」「お客様の満足の向上」
「企業リスクの適切な管理」「人権の尊重」「働きやすい職場づくり」

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

丸文グループの価値創造モデル

Purpose テクノロジーで、よりよい未来の実現に貢献する

丸文の資源と基盤

Mission

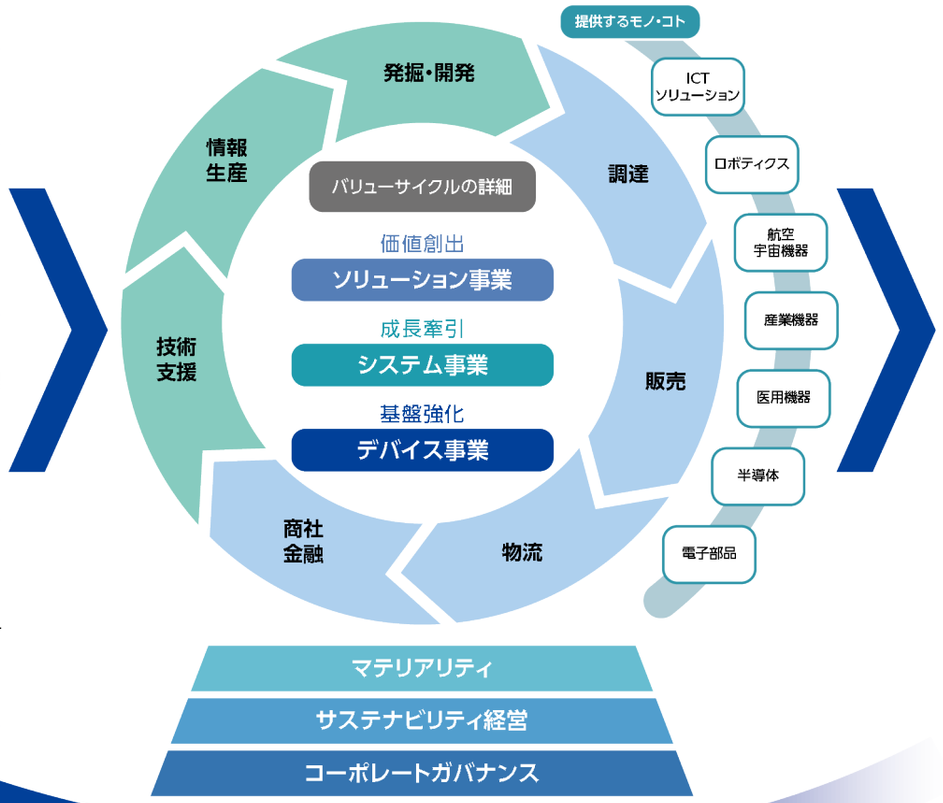
「先見」と「先取」の精神のもと、
人と技術とサービスで
社会とお客様の課題を解決する

財務	● 効果的な資本資源配分と内部留保活用 ● 上場規律下の財務企画運営
顧客・社会	● 販売先3,000社以上に対する提案力 ● 仕入先800社以上との提携関係 ● 「丸文ブランド」のB-to-B領域での訴求力 ● 丸文財団を通じた技術発展支援
内部プロセス	● 丸文グループ各社の国内外拠点網 ● 盤石なグローバル・サプライチェーン管理 ● 先端技術の知見とソリューション開発力 ● 信頼性の高いオペレーション運営 ● 綿密な統合的リスク管理
人材とインフラ	● 専門性の高いプロの「人的資本」集団 ● 戦略的な採用・能力開発・適材配置 ● 「失敗を怖れない革新と挑戦」の企業風土 ● 信頼性の高い経営情報 ● 事業継続と成長を支えるICTインフラ

丸文のビジネスモデルとバリューサイクル

中期経営計画「丸文 Nextage 2024」

「未来」をつなぐ、「技術」で繋ぐ。



マテリアリティ
サステナビリティ経営
コーポレートガバナンス

価値創造の好循環創出

丸文の創出する価値

Vision

独自の価値を提供するオンリーワンの
エレクトロニクス商社として
最も信頼される存在となる

環境・社会の課題解決
経済厚生の拡大への貢献

顧客企業の成長による産業の発展	持続可能な社会インフラ構築	安全で豊かな社会の実現

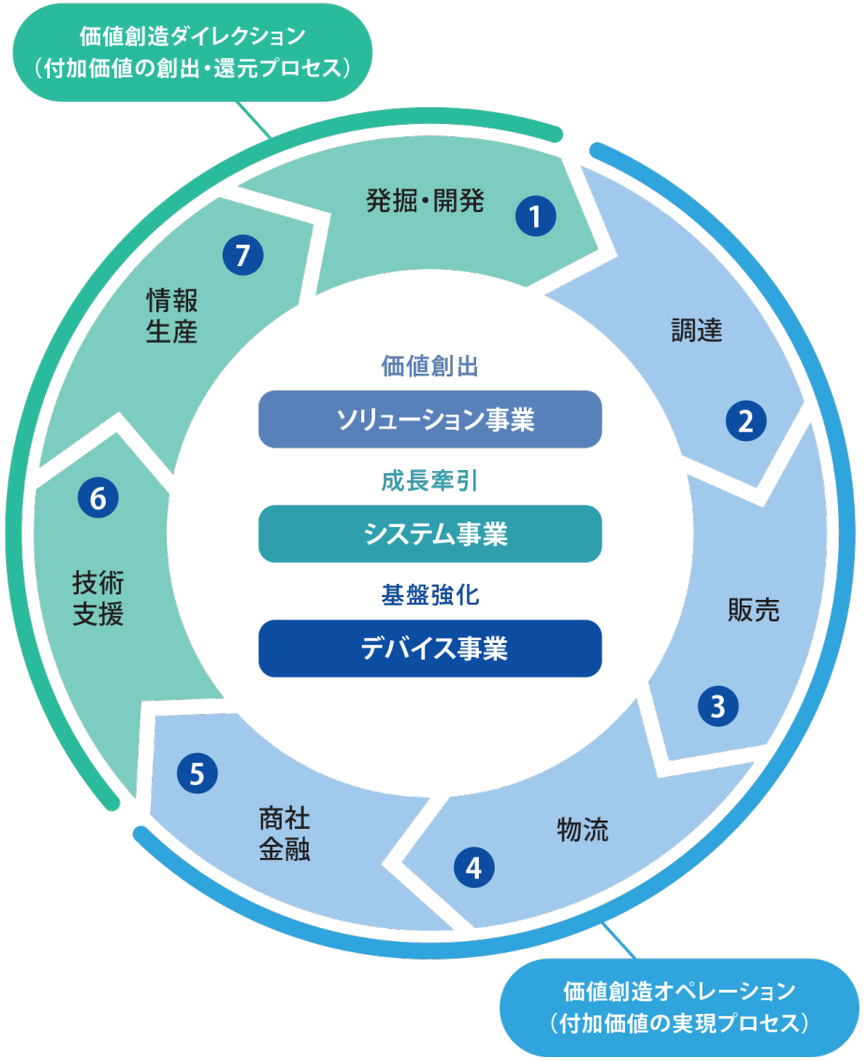
経営資源のさらなる蓄積
経営基盤のさらなる充実

新たな技術と知見の集積	役員社員の成長とエンゲージメント向上
商権基盤のさらなる拡大	連結財務目標の実現

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

バリューサイクル



❶ 発掘・開発

創業時から継承されてきた「先見」と「先取」のDNAに基づく目利き力で、最先端の優れた製品・技術・サービスを発掘し、いち早くお客様に提供しています。事業のさらなる発展につなげるため、事業買収やベンチャー投資などの事業投資も行っています。

❷ 調達

800社以上の仕入先の製品・サービスを取り扱い、戦略的なパートナーシップのもと、お客様が求める商材を世界中からタイムリーに調達しています。日々変化する多様なニーズに応えられるよう、調達ソースの拡充・拡大に取り組んでいます。

❸ 販売

カスタマーファーストの精神でお客様に寄り添い、高付加価値の商品・サービスを販売しています。また米国との提携によるグローバル販売網を通じて、現地での部材調達、生産移管サポートを行っています。

❹ 物流

高度な物流管理システムにより効率的で正確なデリバリー体制を確立しています。適切な含有化学物質管理などにより製品の安全性を確保するとともに、特定輸出者の認証を受け、迅速な輸出入業務、ジャストインタイムの納入を実現しています。

❺ 商社金融

これまでに培った信頼と資金調達力を強みに、仕入先とお客様との間に立って、企業間信用をもとにした取引を行っています。緻密な資金管理と与信管理で財務リスクを低減し、自己資本の適正水準維持により、事業の継続性を担保しています。

❻ 技術支援

専門の技術サービス部門やエンジニアリングサービス会社を有し、機器の導入から据付・保守までワンストップのサービスを提供しています。またお客様のニーズに対応し、複数の機器や部品、ソフトウエアを組み合わせ、最適なシステムを提案しています。

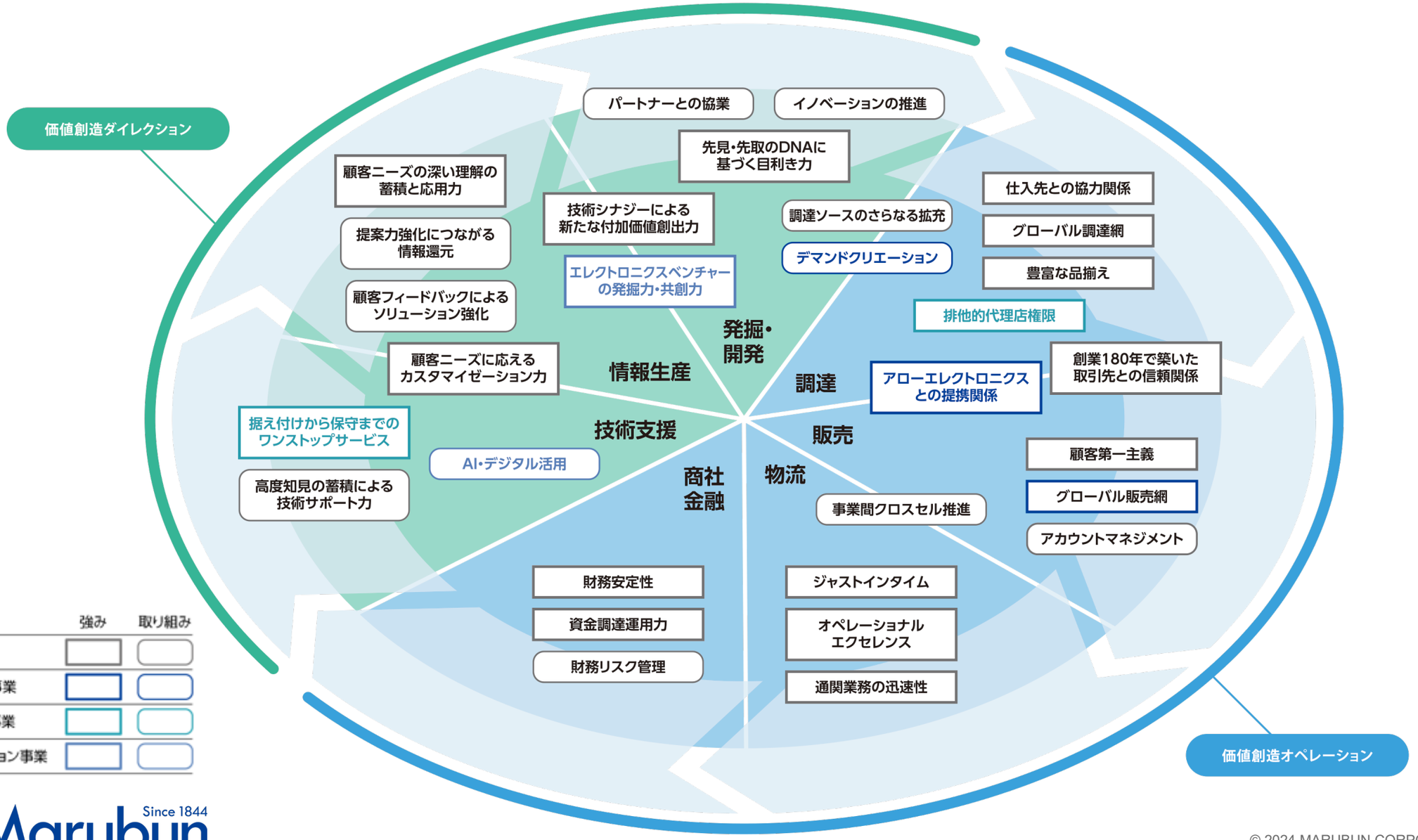
❼ 情報生産

最先端の技術情報をお客様に提供するとともに、販売活動やエンジニアリングサービスを通じて得られた情報をもとに、社会やお客様が抱える課題、予見されるニーズを分析・把握し、新たなソリューションやビジネスモデルの創出につなげています。

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

バリューサイクルにおける丸文グループの強み・取り組み



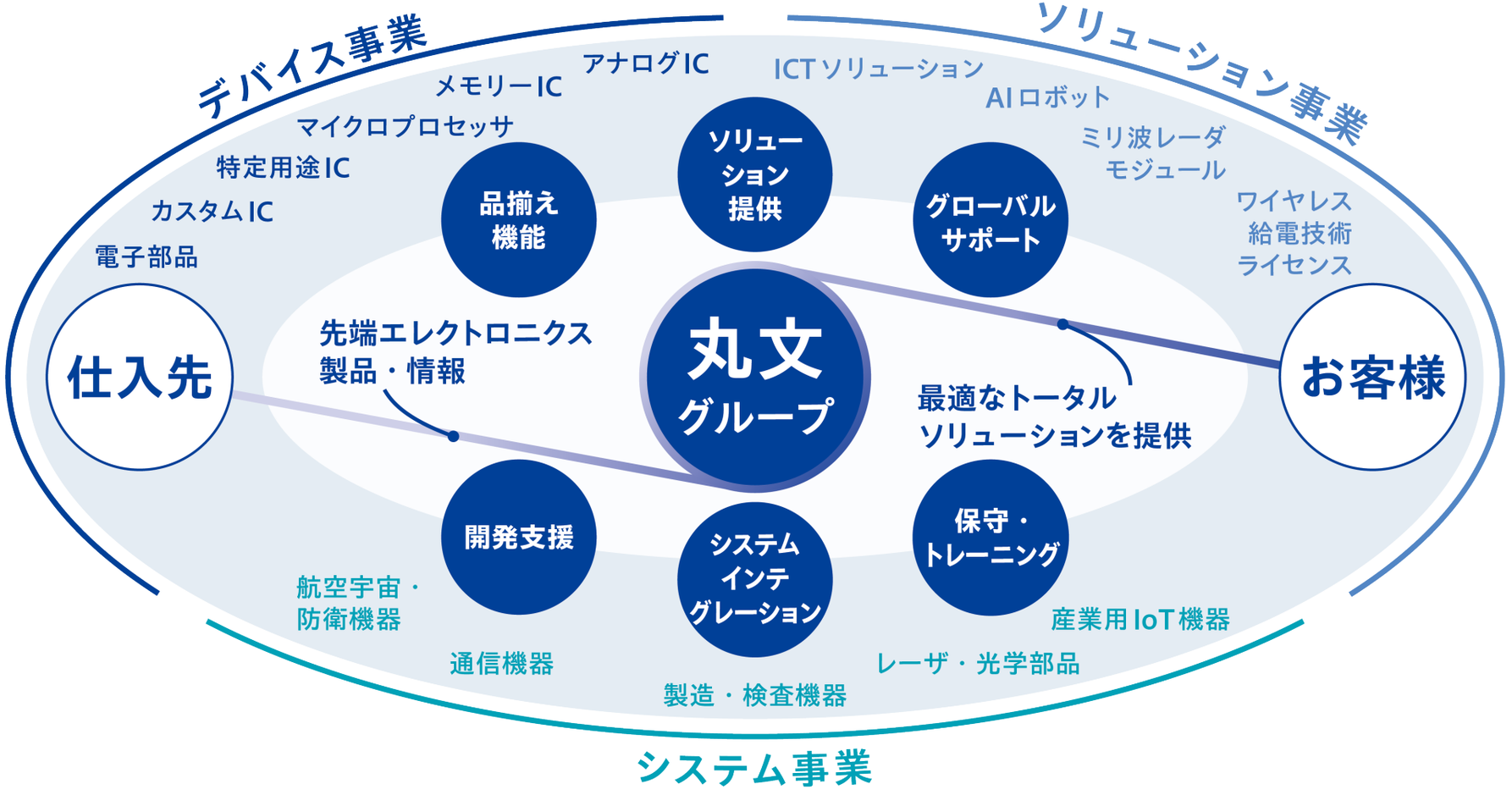
	強み	取り組み
■全社共通		
■デバイス事業		
■システム事業		
■ソリューション事業		

Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

事業内容

- 丸文の「6つの機能」が仕入れから運用までフルサポート
- エレクトロニクス商社として、「お客様のメリットに直結するソリューション」を最適な形で提供



Marubun Since 1844

© 2024 MARUBUN CORPORATION

デバイス事業：主要取扱い製品

品目 Item / 主要仕入先 (アルファベット順) Suppliers	半導体					電子部品		
	アナログIC	メモリーIC	マイクロプロセッサ	特定用途IC	カスタムIC	電子部品	電子機器	その他
	標準アナログ、センサー、ディスクリート	フラッシュ、DRAM	MPU、MCU、DSP	ASSP、LED	カスタム、ASIC、FPGA	ディスプレイ、水晶振動子、コネクタ・スイッチ・基板	IoT機器、医療機器	パワーサプライ、ボードPC、ソフトウエア、IPライセンス
エイブリック	●	●						
Allegro MicroSystems	●			●				
Analog Devices	●		●	●		●	●	
旭化成エレクトロニクス	●		●	●	●			
ATP		●						
Broadcom	●			●	●		●	●
Etron		●						
ELAN			●	●				
eYs3D				●			●	
Genesys Logic				●				
GOWIN					●			
Infineon Technologies	●	●	●	●				
ISSI	●	●		●				
Microchip	●	●	●	●	●	●		
Molex						●		
MPS※	●							
PixArt				●				
Nuvoton	●		●	●	●			
Qorvo	●		●	●	●			
REFOND				●				
SEMTECH	●			●				
セイコーエプソン			●	●	●	●	●	
Semikron Danfoss	●							
Synaptics			●	●				
TE Connectivity	●					●		
Telit						●		
VISHAY	●			●				●
Western Digital		●						
Wolfspeed	●							

※：Monolithic Power Systems.Inc,

Since 1844 Marubun

© 2024 MARUBUN CORPORATION

システム事業：主要取扱い製品

分野	主要商品	主要仕入先
航空宇宙機器		
航空関連機器	電磁波情報収集機材、レーダーシステム、ボアサイト整備機材、 テレメトリ受信・変復調装置、データ収録装置、アンテナ、耐環境ディスプレイ フライト／ドライビングシミュレータ、係留型飛行船	SAAB AB、Textron Systems、L3Harris Technologies Telemetry & RF Products、Communication & Power Industries Systems Engineering & Management Company、ScioTeq bvba、TREALITY SVS Belgium BV、Ansible Motion、Raven Aerostar
宇宙関連機器	宇宙用高信頼性部品及びコンポーネント、光学エンコーダ、各種ボード機器	Comtech Mission-Critical Technologies、Sensitron Semiconductor、 Syrlinks、 BEI Precision Systems & Space、Aitech Defense Systems、 STMicroelectronics
高周波電子機器	クライストロン、進行波管、増幅器、アンテナシステム、 導波管及び同軸コンポーネント、電力計、周波数コンバータ	Communication & Power Industries、Bird Electronic, Work Microwave GmbH
計測機器、各種センサー	各種センサ（加速度、圧力、荷重、マイクロフォン、角速度、変位）、近傍スイッチ データ収録解析装置、衝突試験用ハニカムバリア、部分放電監視機、多機能測定器	ENDEVCO、日本ベーカーヒューズ (Baker Hughes)、日本ハネウェル ジャパン (Honeywell Japan)、DTS、G.R.A.S. Sound & Vibration A/S、mg-sensor、電子応用 (Applied Electronics)、PLASCORE、IRIS Power, Liquid Instruments
産業機器		
検査装置	3次元X線検査装置、ロックイン発熱解析装置、Wafer検査装置、 自動検査システム、光学式燃焼解析センサー、高分解能分光器	ユー・エイチ・システム (U.H.SYSTEM)、 日本エフイー・アイ (FEI Company Japan)、日本ベーカーヒューズ (Baker Hughes) ハイメック (HIMEC)、LaVision
製造装置・組立装置	電子部品組立装置、温度特性検査装置、精密接合装置、 大気圧プラズマ表面改質装置	アキム (Akim)、山岡製作所 (YAMAOKA SEISAKUSHO)、日本アビオニクス (Nippon Avionics)、FUJI、HELLER Industries、SET
組込みソリューション	BUS型CPUボード、各種PCボード	ADLINK TECHNOLOGY、ASUS IoT、AAEON、AVALDATA、ASRock、DFI、TechNexion、SMART Embedded Computing、Aitech Systems
レーザー機器		
レーザー発振器・レーザー加工機	高出力半導体レーザー、産業用ファイバーレーザー、産業用フェムト秒レーザー レーザー加工装置	nLIGHT、Laserline、Amplitude、NUTECH、FUTONICS、Scansonic OPTICAL ENGINES
光源、光学部品・モジュール	LED 、半導体レーザー、フラッシュランプ、キセノンランプ、各種センサ、光学モジュール 光源装置	Excelitas Technologies、 Luminus Devices、TE Connectivity(First Sensor)、 Young Optics、ViALUX、Visitech Engineering、United Power Research Technology
医用機器		
画像診断機器	MRI、CT、 DR/X-ray、 超音波診断装置	島津製作所 (Shimadzu)、シーメンスヘルスケア (Siemens Healthcare)、コニカミノルタジャパン (Konica Minolta Japan) 富士フイルムヘルスケア (FUJIFILM Healthcare)
人工透析機器	人工透析装置、ダイヤライザー、血液浄化システム	日機装 (Nikkiso)、旭化成メディカル (Asahi Kasei Medical)、カネカメディックス (Kaneka Medix)
臨床検査機器	臨床検査機器	シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス (Siemens Healthcare Diagnostics)、ベックマンコールター (Beckmancouiter)

© 2024 MARUBUN CORPORATION

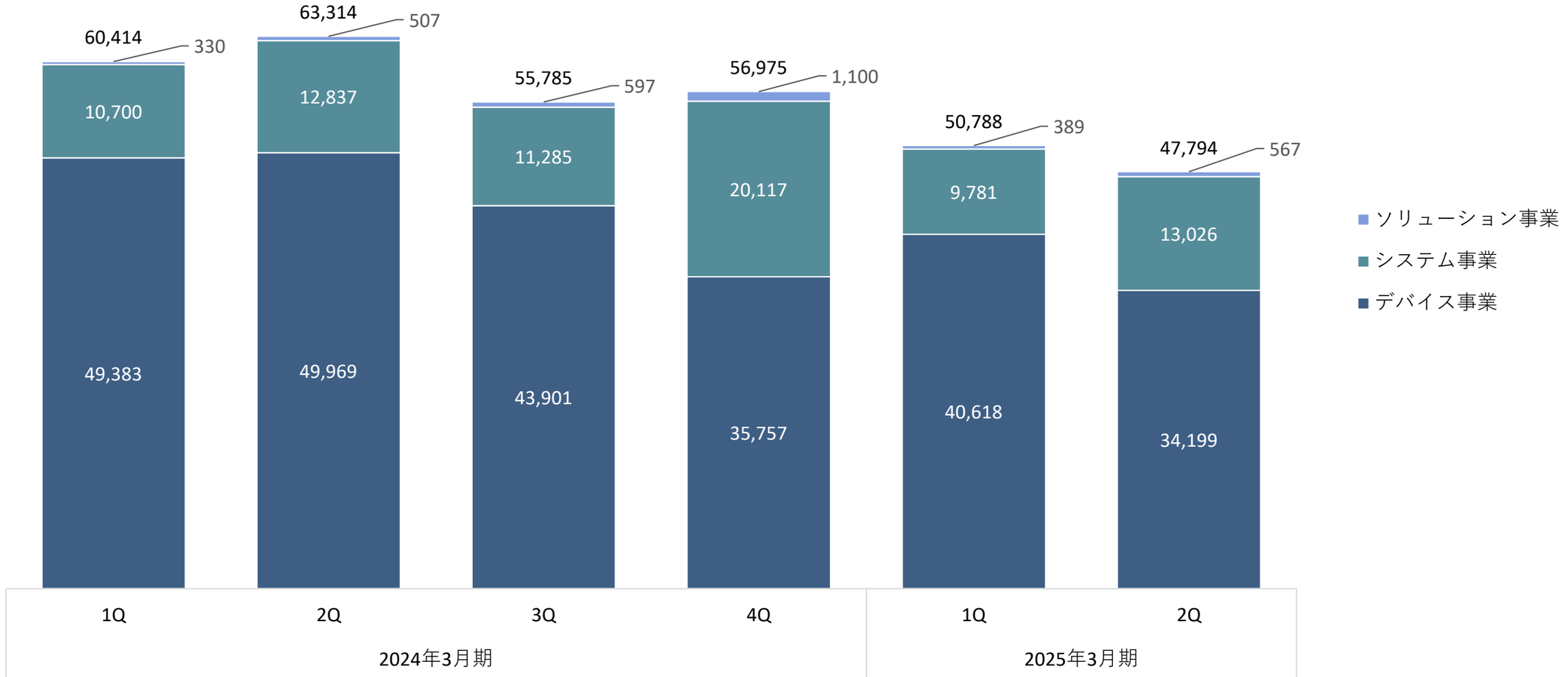
ソリューション事業：主要取扱い製品

分野	主要商品	主要仕入先
ICT ソリューション　ICT Solutions		
ICT ソリューション	RF・IP通信、衛星測位、ネットワーク同期、セキュリティ、IoT	Microchip Technology、Spirent Communications、HUBER+SUHNER Polatis、Coherent、Calnex Solutions、PCTEL、Accedian、Ranplan Wireless、Bristol Instruments、Septentrio、Pendulum、EXFO
AI・ロボティクス　AI・Robotics		
AI・ロボティクス	ヒューマノイドAIロボット、AIコミュニケーションロボット	Aeolus Robotics、NUWA Robotics
先端ソリューション	ミリ波レーダモジュール、カーボンナノチューブ、ワイヤレス給電技術ライセンス、フレキシブル基板、光通信IC/モジュール	エスタカヤ電子工業 (Stakaya)、Acconeer、Nanoramic、OSSIA、エレファンテック (Elephantech)、Silicon Line
医療機器	電子聴診器、単回使用パルスオキシメータプローブ	StethoMe, Honeywell Healthcare Solutions

© 2024 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（事業別売上高）

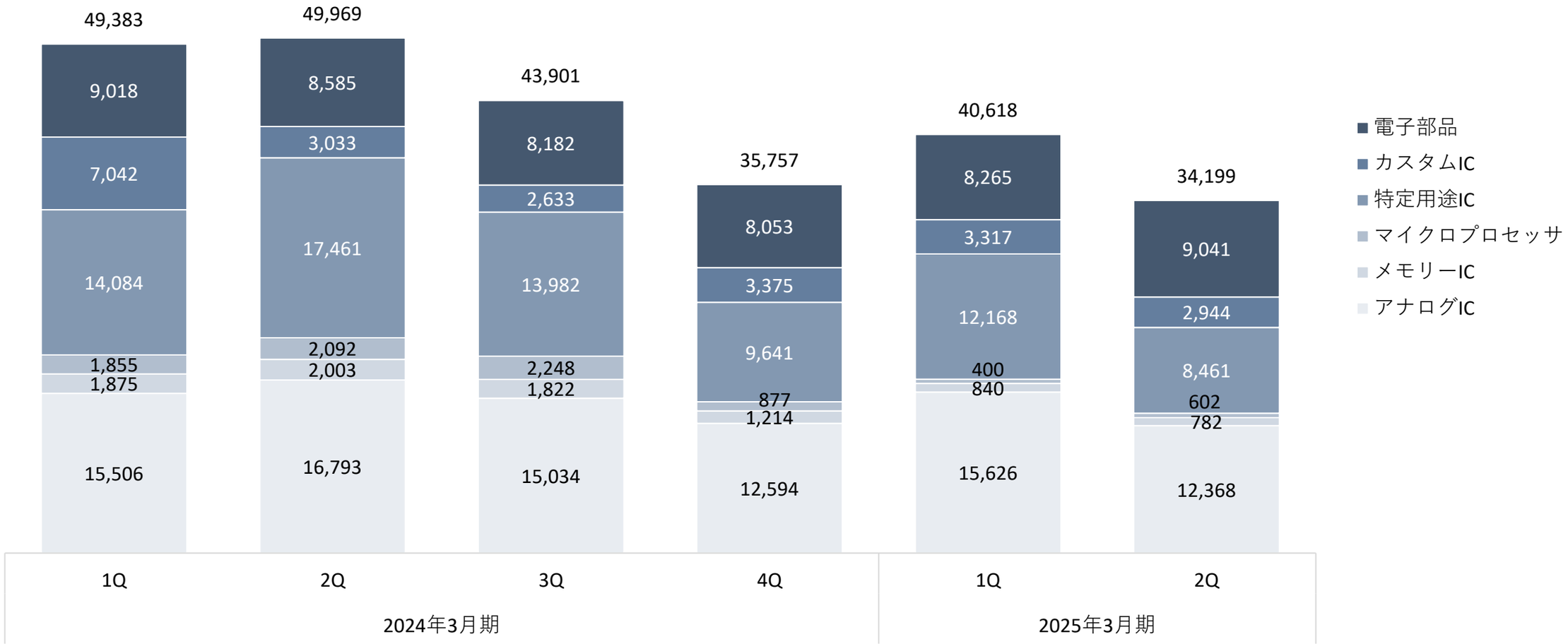
（百万円）



© 2024 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）

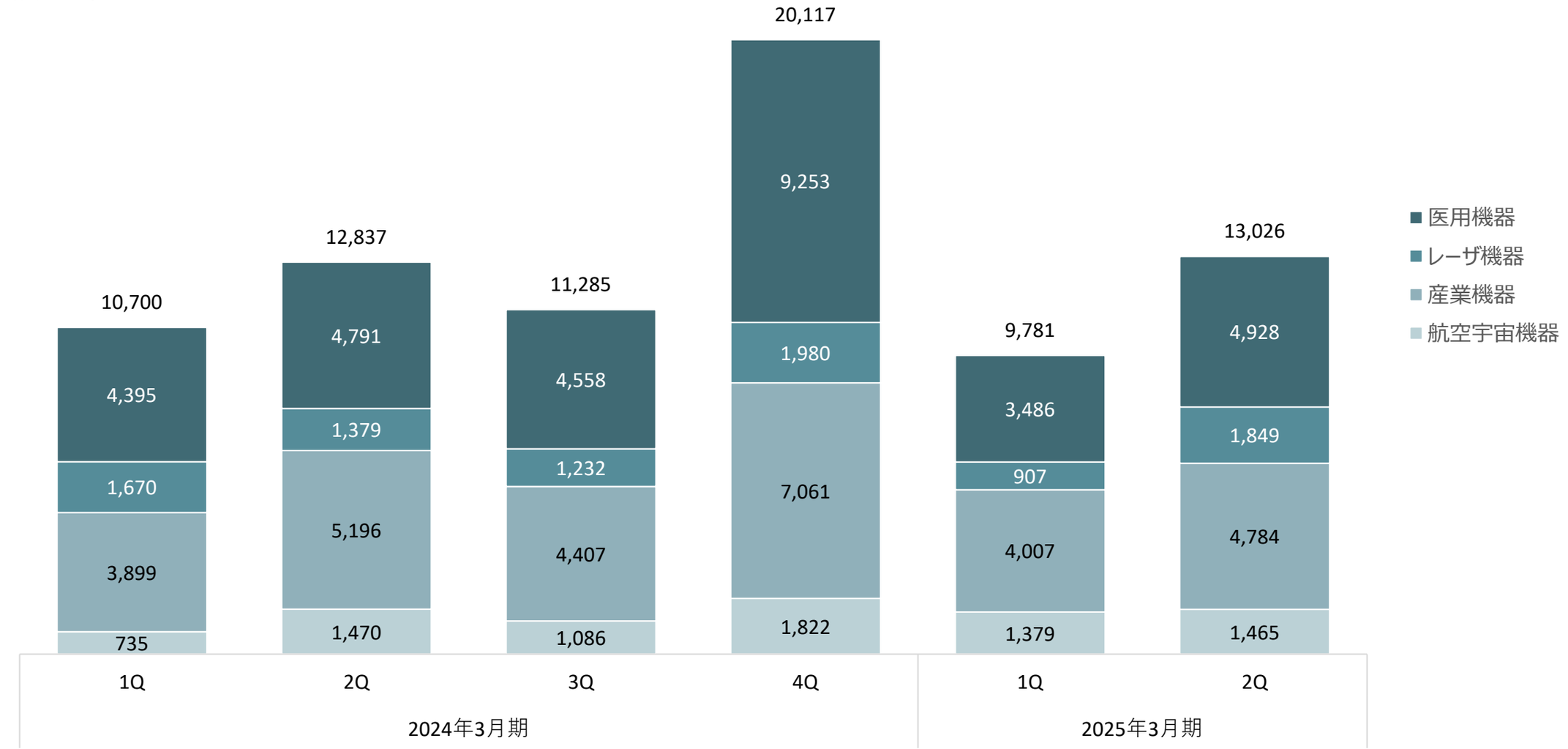
（百万円）



© 2024 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）

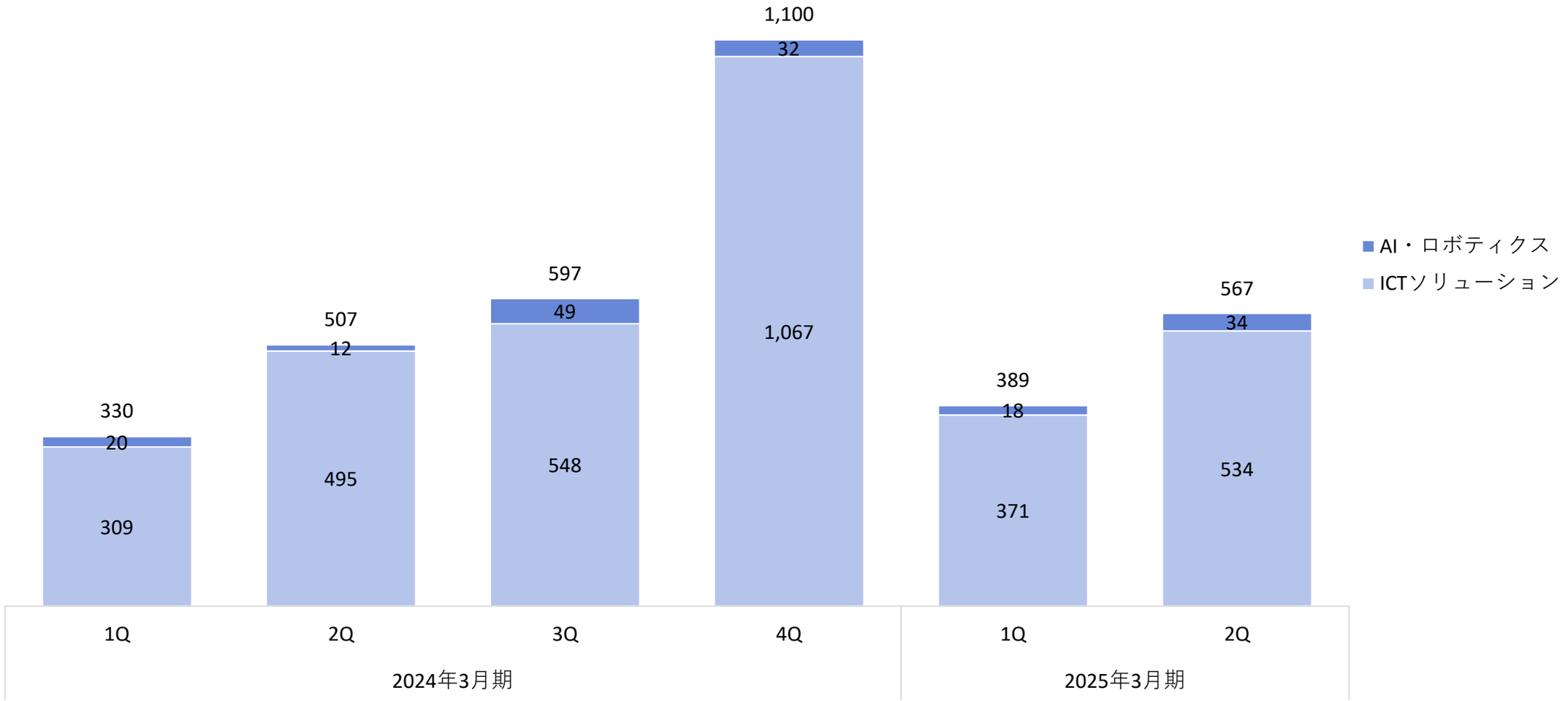
（百万円）



© 2024 MARUBUN CORPORATION

業績四半期推移（ソリューション事業：品目別売上高）

（百万円）



© 2024 MARUBUN CORPORATION

本資料お取扱い上のご注意

本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社　経営企画部

E-mail：ir@marubun.co.jp

© 2024 MARUBUN CORPORATION